ＣＣＤビデオカメラ　　取扱説明書

１１００万画素プログレッシブ走査型白黒／カラーカメラ

FC11000CL
FS11000CL

●このたびはＴＡＫＥＸ　ＣＣＤビデオカメラをお買いあげいただき，誠にありがとうございました．

●この説明書と添付の保証書をよくお読みのうえ，正しくご使用下さい．
その後大切に保管し，わからない時は再読して下さい．

目　　次

１．特長 …… ３
２．概要 …… ３
３．各部の説明 …… ４
４．操作方法 …… ６
５．各種設定 …… １０
６．設定変更方法 …… １３
７．シリアル通信制御 …… ２１
８．タイミングチャート …… ２６
９．注意事項 …… ３１
１０．仕様 …… ３２
１１．外形寸法 …… ３３

竹中システム機器株式会社
文書整理番号　K13B09
取扱説明書（３版）

［変更履歴］

	版	変更内容	記事	日付	文書番号	備考
	1　版	初版発行		2010- 3-14	K10314	FC11000CL FS11000CL
	2　版	誤記訂正		2011- 1-11	K11111	
	3　版	注意事項追記、外形図変更 誤記訂正	撮像素子の経時劣化対策など	2013-11-09	K13B09	

本説明書中での付加表記について

（注）…　ご使用に際してご注意頂きたい点を解説しています.

（！）…　従来製品との比較の上で特にご注意頂きたい点を解説しています.

［用語］…　本カメラの動作を説明する為に特別に規定する用語を解説しています.

［解説］…　本カメラの動作を理解する上で必要と思われる事柄を解説しています.

１．特長

・ＦＣ１１０００ＣＬ／ＦＳ１１０００ＣＬは総画素数１１００万画素，対角４３ｍｍのＣＣＤ撮像素子を採用したフルフレームシャッタカメラです．
・毎秒５フレームのフルフレームシャッタ画像が得られます．
・カメラリンク(Base Configuration)準拠の１０or８or１２ビットデジタル映像信号出力が得られます．
・カメラリンク経由のシリアル通信を用いてカメラの内部設定値の外部制御が可能です．
・ＯＳＤ表示による文字情報のスーパーインポーズ機能でキャプチャー画像上にカメラの現在の設定状況を表示することが出来ます．
・カメラ内部温度モニター機能を搭載しています．
・ランダムシャッタ動作は従来のプリセットトリガ，パルス幅トリガで使用出来ます．
・連続シャッタ動作時にもストロボ信号を出力する事が出来るのでLED照明などの省電力化，ｽﾐｱの低減に効果が有ります．
・カメラ個体毎にユーザが設定したＩＤ情報を保存し，必要なときに読み出す事が出来ます（シリアル通信を使用）．
・ＤＵＡＬ動作時，自動的に左右の影像差を目立たなくする補正機能を装備しています．
・ＦＣ１１０００ＣＬは白黒カメラです．ＦＳ１１０００ＣＬはカラーカメラ（ベイヤーＲＡＷ出力）です．
※ＦＳ１１０００ＣＬには，ＩＲカットフィルタが装備されていません．赤外光の影響で色表示に不都合が生じる場合は，レンズ前にＩＲカットフィルタを装着してご使用ください．

２．概要

		DUAL出力	SINGLE出力
撮像素子		ＣＣＤ撮像素子：白黒／カラー	
撮像ｻｲｽﾞ 画素数 画素ｻｲｽﾞ		36.07mm×24.05mm（対角43mm） ４００８(H)×２６７２(V) 9.0μm(H)×9.0μm(V)	
有効画素数		１０７０万画素	
読出し走査	水平	14.1KHz	7.5KHz
	垂直	5.1Hz	2.7Hz
	ｸﾛｯｸ	３２．５０ＭＨｚ	
電子シャッタ		１／２０００～１／５秒 （連続シャッタ／ランダムシャッタ）	
ビデオ出力信号		Camera Link（Base Configuration） 準拠 １０or８or１２bit	
		２Ｔａｐ	１Ｔａｐ
走査モード		全画素独立 倍速走査	

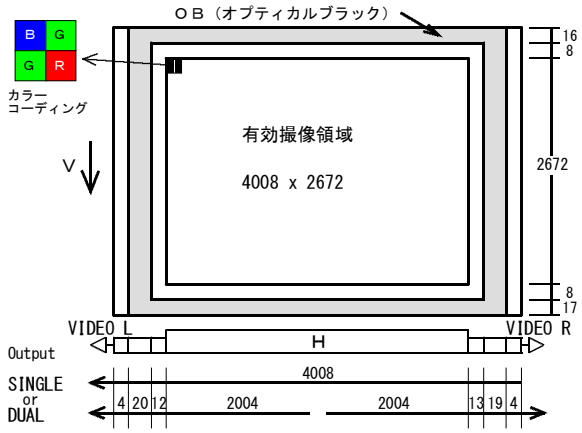


図２－１　ＣＣＤの構造

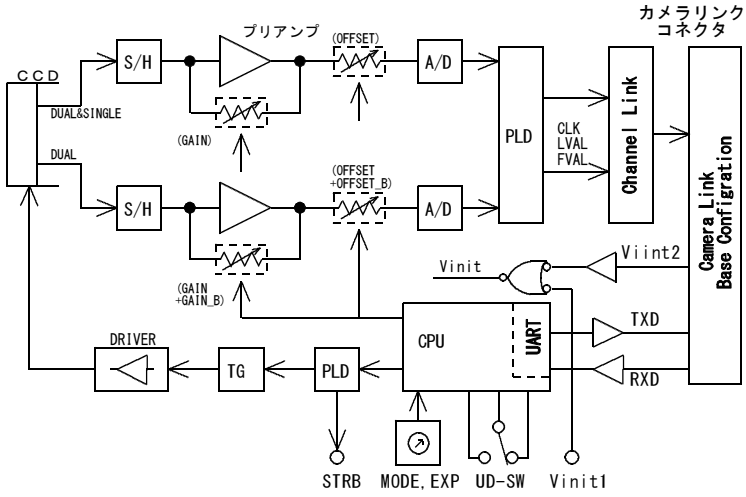
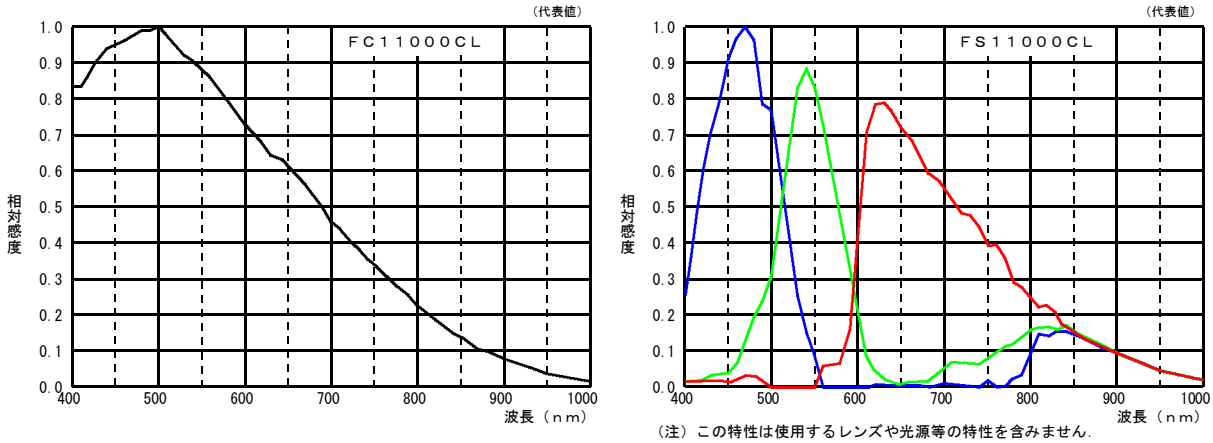


図２－２　ブロック図

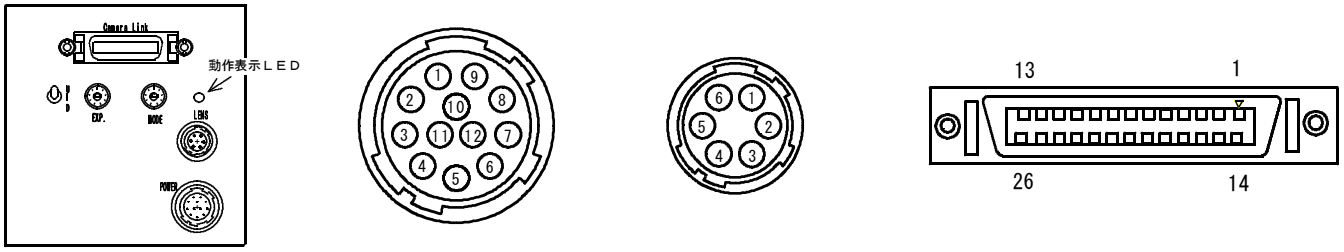


（注）この特性は使用するレンズや光源等の特性を含みません．

図２－３　感度波長特性

３．各部の説明

（３－１）カメラ背面パネルの説明
　動作モード，電子シャッタ時間等の設定，および，各出力コネクタの配置．→下図をご覧ください．



リヤパネル　　カメラコネクタ（ＰＯＷＥＲ）　　アイリスコネクタ（ＬＥＮＳ）　　カメラリンクコネクタ

図３－１　リヤパネル

（３－２）カメラコネクタ（ＰＯＷＥＲ）(HRS HR10A-10R-12PB)
　カメラケーブル接続コネクタ（12ピン）の各ピンに対応する信号名を以下に示します．

ﾋﾟﾝ番号	信　号　名	内　　容	I/O
1	GND (0V)	電源用グランド	
2	+12VDC	ＤＣ電源入力	(In)
3	GND	信号用グランド	
4	IC		
5	GND	信号用グランド	
6	Vinit1	外部トリガ入力	IN

ﾋﾟﾝ番号	信　号　名	内　　容	I/O
7	IC		
8	GND	信号用グランド	
9	IC		
10	GND	信号用グランド	
11	STRB	ストロボ出力	Out
12	GND	信号用グランド	

※ICピンは，カメラ内部で使用されていますので、何も入力しないでください．

（３－３）アイリスコネクタ（ＬＥＮＳ）(HRS HR10A-7R-6SB)
　アイリスレンズ用コネクタ（６ピン）の各ピンに対応する信号名を以下に示します．

ﾋﾟﾝ番号	信　号　名	内　　容	I/O
1	NC		
2	GND (0V)	電源用グランド	(Out)
3	IRIS	アイリス出力	Out

ﾋﾟﾝ番号	信　号　名	内　　容	I/O
4	+12VDC	ＤＣ電源	(Out)
5	NC		
6	NC		

（３－４）モードスイッチ（ＭＯＤＥ）
　モードスイッチ番号とＵＰ／ＤＯＷＮスイッチ操作により，カメラの動作モード，ゲインの設定などを行います．

（３－５）シャッタスイッチ（ＥＸＰ．）
　シャッタスイッチ番号により，カメラのシャッタ時間（露光時間）を行います．

（３－６）ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチ（Ｕ－Ｄ）
　ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチ操作とモードＳＷ番号により，カメラの動作モード，ゲインの設定などを行います．

（３－７）カメラリンクコネクタ　(3M / MDR-26 FEMALE)
　カメラリンクコネクタの各ピンに対応する信号名を以下に示します．

コネクタ ピン番号	信号名	ﾂｲﾅｯｸｽｹｰﾌﾞﾙ 割り当て	コネクタ ピン番号	信号名	ﾂｲﾅｯｸｽｹｰﾌﾞﾙ 割り当て
1	inner shield	shield	14	inner shield	shield
2	X0-	PAIR1-	15	X0+	PAIR1+
3	X1-	PAIR2-	16	X1+	PAIR2+
4	X2-	PAIR3-	17	X2+	PAIR3+
5	Xclk-	PAIR4-	18	Xclk+	PAIR4+
6	X3-	PAIR5-	19	X3+	PAIR5+
7	SerTC+	PAIR6+	20	SerTC-	PAIR6-
8	SerTFG-	PAIR7-	21	SerTFG+	PAIR7+
9	CC1-	PAIR8-	22	CC1+	PAIR8+
10	CC2+	PAIR9+	23	CC2-	PAIR9-
11	CC3-	PAIR10-	24	CC3+	PAIR10+
12	CC4+	PAIR11+	25	CC4-	PAIR11-
13	inner shield	shield	26	inner shield	shield

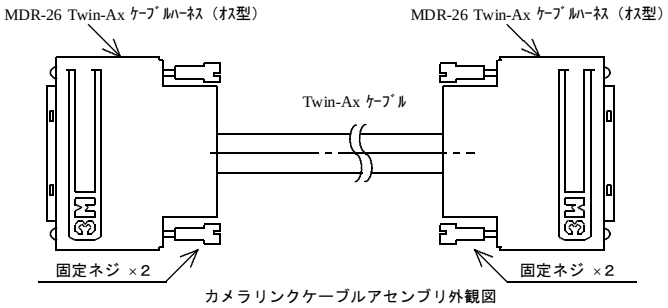
（注）カメラリンクコネクタのピン配置はカメラ側（上表）とキャプチャーボード側では異なっています．
　　キャプチャーボード側では次の様にケーブルの接続番号がカメラ側と逆となる点に注意して下さい．

```
 1 = inner shield   ,  14 = inner shield
 2 = CC4-           ,  15 = CC4+
 3 = CC3+           ,  16 = CC3-
  …                    …
12 = X0+            ,  25 = X0-
13 = inner shield   ,  26  = inner shield
   （フレームグラバー側のピン配置）
```

［カメラリンク・ビット割り当て表］（カメラリンク信号; エンコード後の信号←エンコード前の信号名の対応）

カメラリンクポート			カメラ信号名	I/O	備　　考
Strobe			CLK	O	画素クロック
LVAL			LDV	O	水平同期タイミング
FVAL			FDV	O	垂直同期タイミング
DVAL			－	O	（Ｈレベルに固定）
Spare			－	O	（Ｈレベルに固定）
CC1			Vinit2	I	ランダムシャッタトリガ
CC2			(reserved)	I	（将来の製品の為に予約）
CC3			(reserved)	I	（将来の製品の為に予約）
CC4			(reserved)	I	（将来の製品の為に予約）
SerTFG			TXD	O	URAT送信データ （従来RS-232Cと同ﾀｲﾐﾝｸﾞ）
SerTC			RXD	I	URAT受信データ （従来RS-232Cと同ﾀｲﾐﾝｸﾞ）
出力ビット数(PORT)					
８	１０	１２			
A0 / B0	A0 / C0	←	DO0	O	最下位データ
A1 / B1	A1 / C1	←	DO1	O	
A2 / B2	A2 / C2	←	DO2	O	
A3 / B3	A3 / C3	←	DO3	O	
A4 / B4	A4 / C4	←	DO4	O	
A5 / B5	A5 / C5	←	DO5	O	
A6 / B6	A6 / C6	←	DO6	O	
A7 / B7	A7 / C7	←	DO7	O	８ビット出力時最上位データ
－	B0 / B4	←	DO8	O	
－	B1 / B5	←	DO9	O	１０ビット出力時最上位データ
－	－	B2 / B6	DO10	O	
－	－	B3 / B7	DO11	O	１２ビット出力時最上位データ
C0 - C7	B2 - B3	－	－	O	（Ｌレベルに固定）
	B6 - B7	－			
		－			

※ポートの割り当てはカメラリンク規格の”Base Configuration”に準拠しています.



カメラリンクケーブルアセンブリ外観図

図３－２　カメラリンクケーブル

４．操作方法

（４－１）接続方法

●接続
カメラと周辺機器の接続例（右図）を参照して下さい.

①カメラのレンズ取付け部カバーを外し，レンズ（別売品）を取り付けます.
②カメラヘッドとカメラ電源（別売品）をカメラケーブル（別売品）で接続します.
カメラケーブルの許容最大長は１０ｍとなっています.
③別項の動作モードの設定方法，シャッタ時間の設定方法に従ってカメラの動作モードを設定します.
④カメラ背面のデジタル出力コネクタと，画像処理装置の入力端子（フレームグラバーボード，コンピュータなど）をカメラリンク対応のデジタルケーブル（別売品）で接続します．カメラのデジタル出力コネクタから上記画像処理装置入力端子までのケーブル許容最大長は１０ｍ となっています.

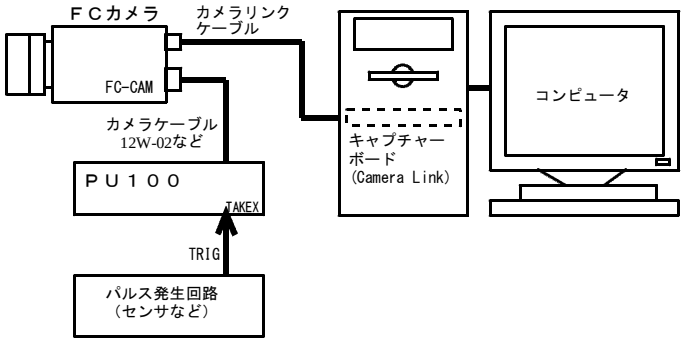


図４－１　カメラと周辺機器接続例

⑤接続状態を確認してからカメラ電源のスイッチを投入します.
電源投入後１～２秒でカメラのバックパネル上の動作表示ＬＥＤがオレンジ色→緑（メニュー表示時は緑点滅）となり，動作状態となります.

（注）上記記載のカメラケーブル，および，デジタルケーブルの許容最大長は，カメラの動作を保証するものではありません.
カメラの設置条件，使用するケーブルなどによっては，上記最大長以内でも正規の映像信号が得られない場合があります.

●テストパターンの利用
本機はテストパターンを発生し出力する機能を備えています．キャプチャーボードとの初期のセッティングなどに際してはこのテストパターンを利用してカメラ→ＰＣ間の接続やボード側の設定が正常かどうかを有る程度確認する事が可能です.

→テストパターンの詳細については”テストパターン表示機能”をご参照下さい.

［重要］

（注）カメラケーブルを接続，または取り外すときは，必ずカメラ電源のパワースイッチをＯＦＦにして下さい.
カメラに通電したままの状態でケーブルの着脱を行いますと故障の原因となります.
（注）カメラを接続する時は，必ずカメラ電源，接続機器の電源を切っておいて下さい.
（注）当社の別売品カメラ電源以外の電源を使用する場合は，下記定格のものをご使用下さい.

電 源 電 圧：ＤＣ１２Ｖ±１０％
電 流 容 量：９００mA以上
電源投入時は１．５Ａ程度の過渡電流が流れますのでご考慮下さい.

リップル電圧：５０mVp-p以下（推奨値）
接続コネクタ：１２ピンコネクタ　１ピン（GND），２ピン（+12VDC）

（注）他社製の電源ユニットには電源接続ピンの位置が異なるものが有ります．他社製の電源をご使用の際には必ず電源とカメラ接続ピンの対応を事前にご確認下さい.
規定外のピンへの電源投入などに伴う故障については有償修理の対象とさせて頂きますのでご注意願います.

（４－２）Ｖｉｎｉｔ信号（ランダムトリガ信号）の入力
●Ｖｉｎｉｔ信号の入力方法
カメラをランダムシャッタ動作で使用する場合はユーザ側機器よりＶｉｎｉｔ信号（ランダムトリガ信号）を入力する必要が有ります．Ｖｉｎｉｔ信号はカメラ背面の”POWER”コネクタ（１２ピンコネクタ）の⑥ピンに入力するか，”Camera Link”コネクタのCC1信号を通じて入力します.
専用電源ＰＵ１００を用いカメラと電源を弊社１２Ｗシリーズケーブルで接続する場合はＶｉｎｉｔ信号（ランダムトリガ信号）を電源ユニット（ＰＵ１００）のトリガ入力端子に接続します.

（注）”POWER”及び”Camera Link”のCC1の各Vinit入力端子（Vinit1，Vinit2）はカメラ内部で論理和（負論理和）が取られています．これらの内の片側の入力がアクティブレベルに固定されていると，Vinit信号（論理和）がＨレベルに固定されてしまい，立ち下がりエッジ信号が得られなくなります．この場合ランダムシャッタ動作が起動出来なくなります．使用しない方の入力信号は非アクティブレベルに固定するか，ハイインピーダンス，または開放（何も接続しない）の何れかの状態として下さい.

●Ｖｉｎｉｔ信号モニターＬＥＤ表示
このカメラがランダムシャッタ動作に設定されている場合，外部から入力されたトリガ信号（Ｖｉｎｉｔ信号）入力に反応してカメラのバックパネル上のＬＥＤを赤くワンショット点灯し表示します.
これにより信号入力の状況が確認出来ます.
トリガ入力の有効エッジ検出１回毎に約100ms間（一定時間）赤色に点灯し表示します.
次のトリガ信号がこの点灯時間内に入力された場合はＬＥＤの点灯時間は再トリガされ延長されます.
ＬＥＤの点灯はトリガ入力の有効エッジ検出のみに反応しますので上のワンショット時間より長いトリガ入力についても点灯回数は約100msの一回のみとなります.

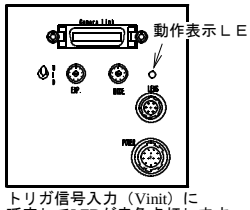


図４－２　ＬＥＤ表示

●ランダムシャッタの各モード設定
次の表に従って各パラメータなどを設定します.
表４－１．ランダムシャッタ各モードの設定

ランダムシャッタのモード	PWC	シャッタスイッチ	備考
固定長　(PWC=DISABLED)	DISABLED	１～９	
固定長　(PWC=ENABLED)	ENABLED	１～８	
パルス幅制御		９	シャッタスイッチ＝１～８は固定長と同じ

（注）シャッタスイッチ＝０の時は全て”シャッタなし（連続画像出力）”となります.
（注）”PWC”　の各パラメータの設定方法等について→”動作モードの設定方法”をご参照下さい.

●固定長／パルス幅ランダムシャッタトリガ信号（Ｖｉｎｉｔ信号）推奨タイミング
次に示す様に固定長ランダムシャッタ動作の場合は１Ｈ（１水平同期期間）～４０Ｈの幅の負論理パルスを印加します.
固定長ランダムシャッタ動作の場合は印加したパルスの立ち下がりタイミングに同期して露光動作がスタートします.
パルス幅制御露光モードの場合，入力されたＶｉｎｉｔパルスのＬレベル区間（図のＴｖｉｎｉｔ）はカメラ内部のＨＤ立ち下がりタイミングに同期化して取り込まれ，それに最も近いＨ（１水平同期時間）の整数倍のパルス幅ｎＨとしてカメラ内部に伝わりその時間に対応したシャッタ時間となります.

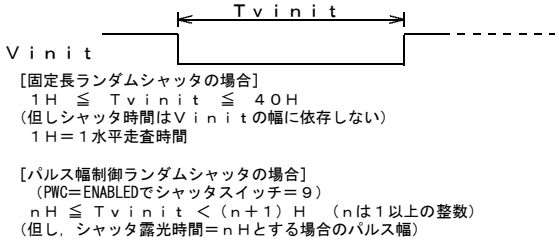
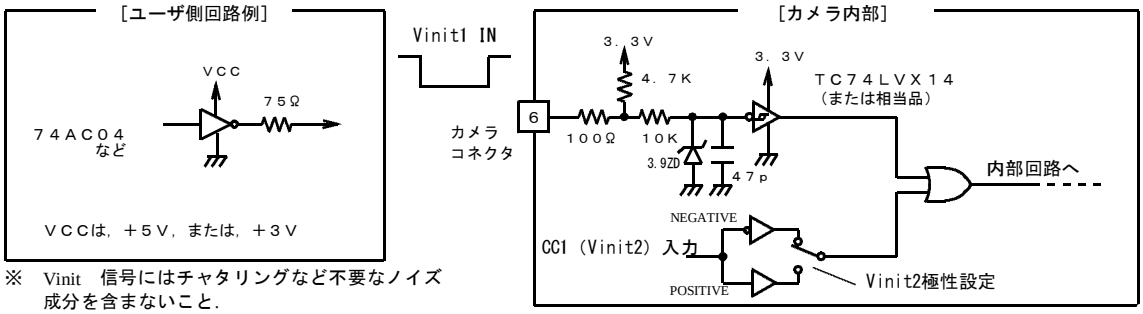


図４－３　Ｖｉｎｉｔ信号タイミング

（注）パルス幅制御に於いて，シャッタ露光時間は概ねＶｉｎｉｔのパルス幅に最も近い水平同期時間（Ｈ）の整数倍の長さに一致します．しかし，厳密には通常の外部トリガ入力（Ｖｉｎｉｔ信号がカメラ内部の水平同期タイミングと非同期である場合）ではシャッタ露光時間は１Ｈ幅の時間分だけ不定となります．→この点については別項のタイミングチャートをご参照下さい.
（注）パルス幅制御モードで長時間のシャッタ露光を行った場合，ＣＣＤのダイナミックレンジの低下，シャッタ時間に比例してＣＣＤ撮像素子の熱雑音成分などが蓄積される，などの要因により画像のＳ／Ｎが悪化する様になります．この様に長時間の露光を行う場合は実用的な露光時間を実際のご使用状況に合わせて実験し，適正な露光時間をお確かめ頂く事を推奨致します.

●Ｖｉｎｉｔ１入力回路の駆動回路例



※　Vinit　信号にはチャタリングなど不要なノイズ成分を含まないこと.

図４－４　Ｖｉｎｉｔ回路

●Ｖｉｎｉｔ２入力の極性反転
カメラリンクのＣＣ１を経由して印加するトリガ信号（Vinit2）の入力極性は設定により反転出来ます.
キャプチャーボードの製品によってはＣＣ１からのトリガ信号入力の極性が正論理（通常時Ｌレベル／アクティブ時Ｈレベル）に限定されていて，負論理入力（本機の工場出荷時の極性）のトリガ信号が使用出来ない場合が有ります．この様な場合は本機の設定によりＣＣ１経由のトリガ入力（Vinit2）の入力極性を反転し正論理とする事が出来ます.

→具体的な設定は”動作モードの設定方法”の項をご参照下さい.

（注）極性反転の設定はVinit2のみに有効です．Vinit1の入力極性はこの設定の如何に関わらず常に負論理となります.

（４－３）ストロボ信号出力回路
右図に内部の出力部回路を示します.

●連続シャッタ時のストロボ信号
従来製品ではストロボ信号（ＳＴＲＢ）をランダムシャッタ動作でのみ出力していましたが，本機では設定により連続シャッタ動作モードでもストロボ信号を出力する事が出来ます.
デフォルトの設定状態ではこの設定はＯＦＦ（連続シャッタでのストロボ信号を出力しない）となっています．この設定の変更はコンフィギュレーションメニュー（動作モード設定グループ３）またはシリアル通信コマンドでのコンフィギュレーションレジスタの書き換えの実行で行います.

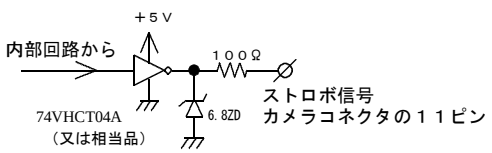
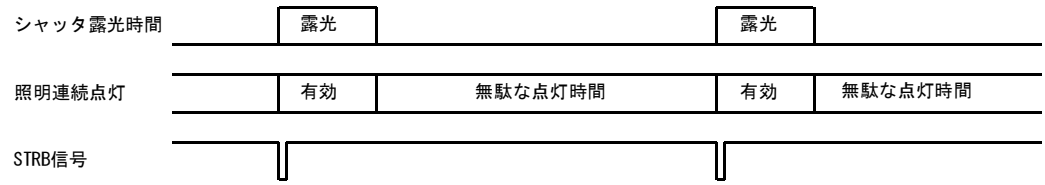


図４－５　ストロボ信号出力

［解説］連続シャッタでのストロボ信号の利用



連続シャッタ動作ではカメラは露光時間に対応した時間の入光のみが有効となります．
従って，照明装置を連続点灯で使用している場合はこの露光時間以外のタイミングでの照明は無駄なものとなります．
本機では連続シャッタ動作時にもストロボ信号(STRB)を出力する事が出来るので，この出力をトリガとしてＬＥＤ照明など，高速にＯＮ／ＯＦＦ制御が可能な照明の点灯を制御することで無駄な点灯時間での発光を抑える事が出来ます．
この方法による照明の制御を用いて得られる効果として次の各点のメリットが有ります．

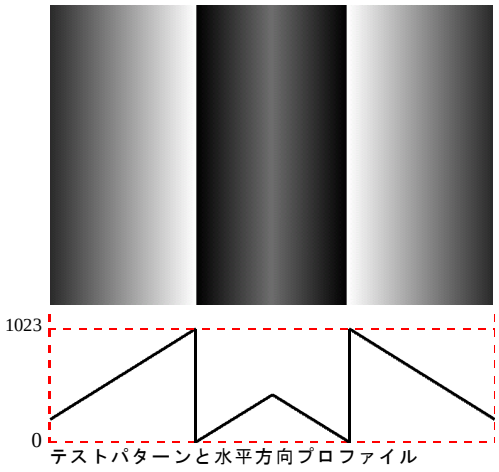
・露光に有効な時間だけ照明を通電する事で照明の電源を省電力化できる．
・露光時間以外の照明の入光がなくなるのでスミアが低減する．

（注）連続シャッタ動作でストロボ信号を用いて光源をＯＮ／ＯＦＦ制御する場合は次の点にご注意下さい．
ストロボ発光装置などには出来るだけカメラの電源と電源分離された（電気的に絶縁された）電源とトリガ入力端子（フォトカプラ入力など）を持つものを使用して下さい．カメラと共通の電源や接地回路を持つ照明装置をストロボ信号でＯＮ／ＯＦＦさせた場合，その際に発生する電源電圧の変動や接地電位の変化の影響を受けてカメラから出力される映像出力にノイズを生じる場合が有ります．
また，上記の様な絶縁が施されている場合でも，ＯＮ／ＯＦＦされる照明の電流が大きい場合には電磁的な誘導により映像信号にノイズを生じる場合が有ります．この様な時は照明装置からの電磁的誘導ノイズを低減する処置を施して下さい．

（４－４）テストパターン表示機能
本カメラと画像キャプチャーボードを最初に接続する際，本機のテストパターン表示機能を用いる事によりカメラの出力タイミングや信号接続内容がキャプチャーボード側と正しくマッチしているかどうかをより容易に判定する事が出来ます．
テストパターン機能をＯＮとすると撮像素子からの映像出力の代わりに右図示す様な画像が出力されます．
このパターンは水平方向１画素毎に数値１が単純に加算されていくもので，数値0～1023の間で鋸歯状のプロファイルを示します．

（注）１０ビット出力の場合は，０～１０２３の範囲で，８ビット出力の場合は０～２５５の範囲で水平１画素毎に数値１ずつ増加するデータとなります．
（注）有効画像端部から0でスタートする数値とはなっていません．
（注）テストパターンの出力数値はカメラのゲイン設定やオフセット設定の値には影響されません．

デフォルトの設定状態ではこの出力はＯＦＦとなっています．
この設定の変更はコンフィギュレーションメニュー（動作モード設定グループ４）またはシリアル通信コマンドでのコンフィギュレーションレジスタの書き換えの実行で行います．



テストパターンと水平方向プロファイル

図４－６　テストパターン

［テストパターン出力のＯＮ／ＯＦＦ切替手順］
①設定グループ４で起動します．（電源ＯＦＦの状態でモードスイッチを”Ｄ”の位置にしてからＵＰ／ＤＯＷＮスイッチをどちらかに倒した状態で電源を投入する）
②ブザーの確認音が”ピピッ”と鳴るのを確認した後ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチのレバーを中立に戻します．
③ＬＥＤがオレンジ点滅の状態になるのを確認してからモードスイッチを”２”に変更します．
④ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチ”ＵＰ”側にストロークするとＯＮ，”ＤＯＷＮ”側にストロークすると”ＯＦＦ”となります．
⑤テストパターンの必要が無くなった場合は，ＯＦＦへの切替を行ってください．設定は保存されますので，電源をＯＦＦにしても再起動時には最後の設定内容で起動します．

（４－５）カメラ内部温度モニター機能
本カメラには内部に温度センサーが搭載されており，現在のカメラ内部の温度をモニターする事が出来ます．この機能を利用すると野外設置など温度環境の厳しい条件でカメラをより安全に使用する事が可能になります．またシリアル通信コマンドと併用することによりカメラとその周辺装置の強制空冷用ファンの制御などに利用出来ます．

●カメラ内部温度のモニター方法
カメラ内部温度をモニターするには次の２つの方法が有ります．
・ＭＥＮＵ表示をＯＮとして画像上のＯＳＤ表示にて確認する．（摂氏温度表示形式）
・ＲＳ－２３２Ｃのコマンド（”ＲＴＭＰ”コマンド）でその返信データより確認する．（別途数値換算が必要）

（注）このモニター機能で得られる温度データはカメラの内部温度であり，周囲の環境温度でない事にご注意下さい．一般に，カメラ内部の消費電力による発熱によりカメラ内部温度は周囲温度より高い値となります．
この機能でモニターされる温度が本機の仕様上の”動作時周囲温度”を越える値となっていても，周囲温度が仕様値以下であり，充分な温度対策が講じられている使用状況では動作上の支障は有りません．

●温度データの検出性能
温度データの分解能：０．５°
データの更新間隔　：０．４秒
温度検出精度　　：±２°Ｃ（－４０°Ｃ～＋８５°Ｃ），＋３～－２°Ｃ（－５５°Ｃ～１２５°Ｃ）
有効データ範囲　：　－５５°Ｃ～１２５°Ｃ　（但し，カメラ動作周囲温度が仕様範囲内である事）

●ＲＳ－２３２Ｃ通信による温度データ
ＲＳ－２３２Ｃの”ＲＴＭＰ”コマンドで返信される温度データは次のフォーマットに従います．

［データのフォーマット］
返信データ１６ビットの内，下位の１０ビットのデータが有効データです．
ＸＸＸＸD9D8…D0　（上位６ビットは無効データ／下位１０ビットのみ有効）
２進数　Ｄｂ＝Ｂ’D9D8…D0　は２の補数形式で符号付きの整数の値を示します．
但し，温度データとして有効な範囲は温度センサの動作上の制限から次の範囲です．
温度データとして有効な範囲；　－１１０（－５５°Ｃ）～＋２５０（１２５°Ｃ）
（注）カメラ動作周囲温度が仕様範囲内でない時の温度データ数値の信頼性は保証されません．

［返信データから摂氏温度への変換方法］
上記の１０ビットの２進数の数値”Ｄｂ＝Ｂ’D9D8…D0”を符号付き整数に変換した数値をＤｔとした時，摂氏温度Ｔｃは次の式で求められます．

カメラ内部温度：　Ｔｃ＝Ｄｔ×０．５°Ｃ

（例１）温度データの返信数値Ｔｄが１６進数で”Ｈ’００３２”の時，２進数では
　　Ｔｄ＝Ｈ’００３２＝Ｂ’０００．０００．００１１．００１０
∴　Ｄｂ＝Ｂ’００．００１１．００１０　＝＋５０　（Ｔｄの上位１０桁のみ有効とする）
　　これより　Ｔｃ＝＋５０×０．５°Ｃ＝＋２５°Ｃ　が求まります．
（例２）温度データの返信数値Ｔｄが１６進数で”Ｈ’０３ＦＡ”の時，２進数では
　　Ｔｄ＝Ｈ’０３Ｆ１＝Ｂ’０００．００１１．１１１１．１０１０
∴　Ｄｂ＝Ｂ’１１．１１１１．１０１０　（Ｔｄの上位１０桁のみ有効とする）　→　Ｄｔ＝－６
　これより　Ｔｃ＝Ｄｔ×０．５°Ｃ＝－６×０．５°Ｃ＝－３°Ｃ　が求まります．

（４－６）操作確認用ブザー
本機ではバックパネル上のＵＰ／ＤＯＷＮスイッチをストロークした際や電源導入後の起動時などに”ピッ”という確認音が鳴ります．出荷時デフォルトではこのブザーはＯＮとなっていますが設定によりこのブザー音を鳴らなくする事も可能です．

［ブザーのＯＮ／ＯＦＦ切替手順］
①設定グループ３で起動します．（電源ＯＦＦの状態でモードスイッチを”Ｃ”の位置にしてからＵＰ／ＤＯＷＮスイッチをどちらかに倒した状態で電源を投入する）
②ブザーの確認音が”ピピッ”と鳴るのを確認した後ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチのレバーを中立に戻します．
③ＬＥＤがオレンジ点滅の状態になるのを確認してからモードスイッチを”２”に変更します．
④ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチ”ＵＰ”側にストロークするとＯＮ，”ＤＯＷＮ”側にストロークすると”ＯＦＦ”となります．
⑤設定終了後そのまま電源をＯＦＦとします．設定は保存されますので，電源をＯＦＦにしても再起動時には最終の設定内容で起動します．

（４－７）カメラＩＤ情報保存機能
本機ではユーザがカメラ毎に固有に設定した識別コードなどをカメラに保存し，また必要に応じて読み出す事が出来ます．
カメラの個体毎の管理，例えば複数のカメラを使用する場合の取り付け位置の情報（例．”CAMERA-RIGHT”，”CAMERA-LEFT”など）などを保存してカメラの識別に使用するなどの利用が可能です．
設定はシリアル通信により行います．設定可能な文字列は最大１５文字までの英数字（大文字と小文字）と制御用コードを除く”＋”，”－”など一部の特殊文字です．　（→詳細は”シリアル通信制御”の項をご覧ください）

（４－８）自動補正機能
本機に搭載しているＣＣＤは，左右２ｃｈの出力を備えており，左右の出力から高速に読み出すことが出来ます（Ｄｕｌａモード）．この際画面の左右中央が撮像領域の境界となっており，ここを境として２つの撮像した映像信号を１つの画面に合成しています．ＣＣＤび左右の出力特性は，完全には一致していないため，左右の出力にレベルが異なることがあります．本機では境界を見えにくくする自動補正機能を搭載しています．出荷時は，自動補正機能はＯＦＦになっています．また，手動で左右のレベルを補正することも出来ます．
使用状況によっては，画面中央を境に左右の影像に段差や境界線が見えることがありますが，故障ではありません．

５．各種設定

（５－１）動作モード

●ＣＣＤ出力方式　　…　ＤＵＡＬ出力／ＳＩＮＧＬＥ出力

●電子シャッタ動作モード
シャッタの方式　　…　シャッタなし／連続／ランダム
シャッタ時間の分類　…　高速／低速／パルス幅制御
など　（右の系統図）

●走査方式　　…　通常走査／倍速走査

→具体的な設定方法は次項（６．項）をご参照下さい．

（！）本カメラでは低速シャッタでのランダムシャッタ動作はサポートしておりません．

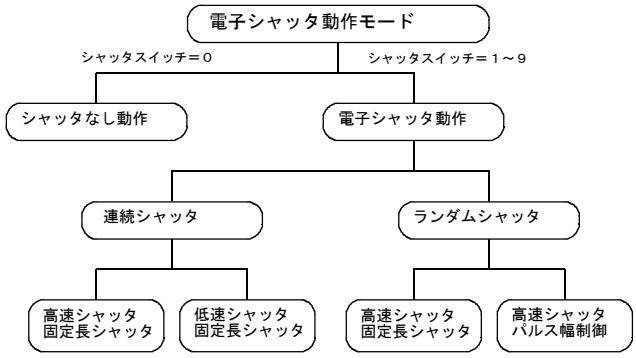


図５－１　電子シャッタモード

表５－１．ＣＣＤ出力方式

ＣＣＤ出力方式	ＤＵＡＬ出力	ＣＣＤの左右２つの出力ポートを用いて同時に出力します．２つの出力ポートを使用することにより高速に読み出すことができます．（高フレームレート）
	ＳＩＮＧＬＥ出力	ＣＣＤの１つの出力ポートを用いて同時に出力します．１つの出力ポートを使用するで読み出し速度は遅くなりますが，安定した映像が得られます．

表５－２．電子シャッタ動作モード

シャッタの方式	シャッタなし	電子シャッタを使用しません． 撮像素子での露光時間は１フレーム時間となります．露光は毎フレーム連続的に行われます．
	連続シャッタ	外部トリガ入力（Ｖｉｎｉｔ）と無関係に露光を繰り返し行います． 繰り返しのピッチは毎フレームとなります．
	ランダムシャッタ	外部トリガ(Ｖｉｎｉｔ)が印加される度に電子シャッタが切られます． 許容される最短の繰り返しピッチは［露光時間＋１フレーム時間］です．

表５－３　シャッタの分類

シャッタ時間の分類	通常シャッタ （高速シャッタ）	シャッタ時間が１フレーム未満のシャッタを用います． シャッタ時間設定は連続シャッタ／ランダムシャッタともに９段階の固定長で設定出来ます． （！）従来のＦＣシリーズカメラではランダムシャッタ動作で８段階の固定長シャッタ．
	低速シャッタ	シャッタ時間が２フレーム以上のシャッタを用います． （連続シャッタのみ）．シャッタ時間は９段階の固定長で設定出来ます． （注）本カメラでは連続シャッタでの動作のみが可能です．
	パルス幅制御	ランダムシャッタ設定時に限り外部トリガ入力（Ｖｉｎｉｔ）のパルス幅（Ｌレベルの期間）に対応したシャッタが切られます． シャッタ時間はＨ（水平同期時間）単位でｎＨ（ｎは１以上の整数）で可能（１フレームより長い時間も許容する）です．

表５－４．その他の動作モード

走査方式	通常走査	毎フレームの読み出しを全画素読み出し走査で行います．
	倍速走査	毎フレームの読み出しを倍速走査（２ライン加算）で行います． 映像が垂直方向に１／２に圧縮されます．

（！）倍速走査は，素直方向に映像信号を加算するため，映像信号が過度な飽和状態になると明暗が反転した映像となることがあります．その場合は，レンズ絞りを一段絞るなど映像信号レベルを下げてしてご使用ください．

（！）カラーカメラ（ＦＳ１１０００ＣＬ）で倍速走査を使用すると，色情報も加算されるため，正常なカラー映像を再現することが難しくなります．

［用語］固定長シャッタ　…　シャッタ動作で設定されるシャッタ時間設定でパルス幅制御以外を指します．即ち，連続シャッタではシャッタスイッチポジション”１”～”９”，ランダムシャッタ動作でシャッタスイッチポジション”１”～”９”（PWC（パルス幅動作モード設定）=DISABLEDの時）又は”１”～”８”（PWC（パルス幅動作モード設定）=ENABLEDの時）で設定されるシャッタ時間を言います．シャッタ時間は（表６－１）で規定されます．

［用語］パルス幅制御　…　ランダムシャッタ動作時，外部から印加するＶｉｎｉｔ信号の幅によってシャッタ時間を制御する事を指します．本カメラではランダムシャッタ動作で設定により”PWC=ENABLED”，とし且つシャッタスイッチ”９”として使用します．

（！）従来製品ではランダムシャッタ動作で且つシャッタスイッチが”９”の場合は常にパルス幅動作モードとなりましたが本品ではランダムシャッタ動作でシャッタスイッチが”９”あっても”PWC=DISABLED（不許可）”に設定されている時は固定長シャッタとなる点にご注意下さい．

［用語］高速シャッタ　…　１フレーム時間（＝１垂直同期期間）より短いシャッタを指します．シャッタ時間はシャッタスイッチの位置で決定される９段階（連続シャッタ，ランダムシャッタ）の固定長となります．

［用語］低速シャッタ　…　１フレーム時間より長いシャッタを指します．シャッタ時間はシャッタスイッチの位置で決定される９段階（連続シャッタ）の固定長となります．

（５－２）シャッタ時間設定
シャッタ時間の設定は主にシャッタスイッチの設定ポジション”０”～”９”により決定します．
通信コマンドでシャッタ時間を指定した場合は，通信コマンドが優先されます．

シャッタ時間は現在のシャッタスイッチのポジションに記憶されているシャッタ時間を表示しており，モードスイッチを”７”する事により現在のシャッタ時間を変更する事が出来ます．

（注）シャッタ時間の変更は現在のシャッタスイッチのポジションが”０”以外の時のみ変更可能です．
シャッタスイッチが”０”の位置ではモードスイッチを”７”としてUP/DOWNスイッチを操作しても変更する事が出来ません（シャッタスイッチ＝”０”では常にシャッタはＯＦＦとなります）．

（５－３）レベル設定
レベル設定は主に次の２種類が有ります．

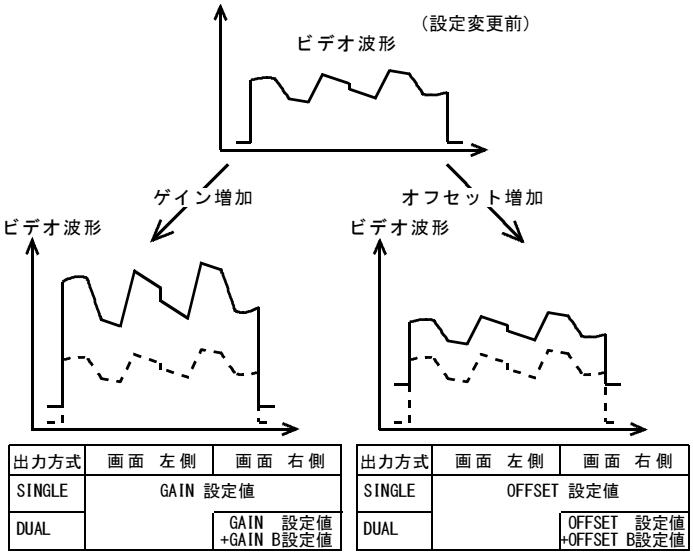
●ゲイン設定
… カメラ内部のＣＣＤ撮像素子→Ａ／Ｄ変換器間のプリアンプのゲイン（増幅率）を設定します．

●オフセット設定
… カメラ内部のＣＣＤ撮像素子→Ａ／Ｄ変換器間のプリアンプのオフセットを設定します．

→ 具体的な設定方法は次項（６．項）をご参照下さい．

（注）オフセット設定については特別な場合を除き，弊社工場出荷時設定でのご使用を推奨します．

（注）オフセット値を詳細に合わせ込む必要が有る場合は（ゲイン設定→オフセット設定）の手順で行って下さい．



出力方式	画面 左側	画面 右側
SINGLE	GAIN 設定値	
DUAL		GAIN 設定値 +GAIN B設定値

出力方式	画面 左側	画面 右側
SINGLE	OFFSET 設定値	
DUAL		OFFSET 設定値 +OFFSET B設定値

図５－２ ゲイン，オフセット各レベルの概念図

（５－４）ＭＧＣゲイン設定値

●ゲイン可変アンプと総合ゲイン
本機の内部ではＣＣＤより出力される映像信号を後段のゲイン可変アンプとそれに続く固定ゲインアンプで増幅した後Ａ／Ｄ変換器に入力しています．
左図はこの部分のブロック図です．

（注）ここで説明するゲイン値（ｄＢ）はＣＣＤ出力を基準（０ｄＢ）とした値です．

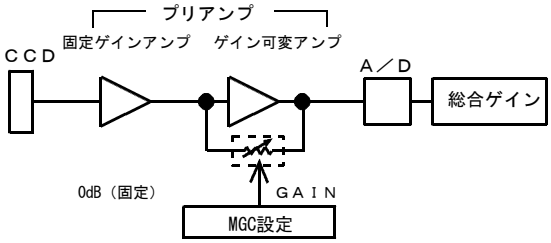


図５－３ ゲイン設定

●ＭＧＣゲイン設定値とＭＧＣゲインの関係
本機ではＭＧＣの設定値を与える事で制御します．
この設定数値とＭＧＣゲイン（可変ゲインアンプ部の利得と固定ゲインアンプ部を含む総合ゲイン）の関係は右図に示すグラフの通りとなります．

（注）ＣＣＤ受光素子のダイナミックレンジの制約の為アンプのゲイン設定を低く設定した状態でＣＣＤ素子に過度な入光が有ると輝度の高い部分でＣＣＤ素子やプリアンプの非直線な部分の信号が出力されます．
この状態では非直線部分の特性の影響で画像の飽和信号近辺で不自然な画像（注１））となる事がありますがこれはＣＣＤ素子の飽和特性に伴う現象であり，カメラの異状ではありません．

この様な場合はレンズの絞りを絞ってＣＣＤへの入光量を減らし，ゲインを高めに設定し直して下さい．飽和部分でのＣＣＤ素子からの出力信号が白レベルに正常に飽和して出力される様になります．

（注）上記の不自然な画像とは次の様な状態を指します．
・飽和した部分で白黒が反転した様になる
・飽和部分の輪郭がぼける．
・飽和部分の領域が上下に多少流れる．
・飽和部分の輝度値が1023に達しない．

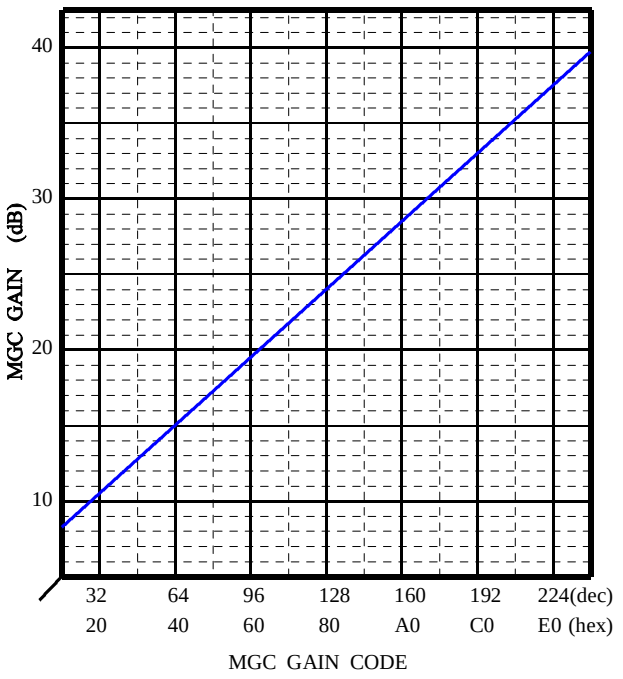


図５－４ ゲイン特性

（５－５）プログラムページ設定

ＦＣシリーズカメラでは内部に不揮発性のメモリを搭載しており，各種動作モードの設定やレベル設定を複数セット記憶出来ます．
カメラ内部では設定項目を仮想的なページ（以後”プログラムページ”）上に保存します．
このカメラではプログラムページを”Ａ”，”Ｂ”，”Ｃ”，”Ｄ”，”Ｅ”，”Ｆ”の６ページ持っています．（右図）

プログラムページの設定，起動時の読み出しなどは，（６．項）をご参照下さい．

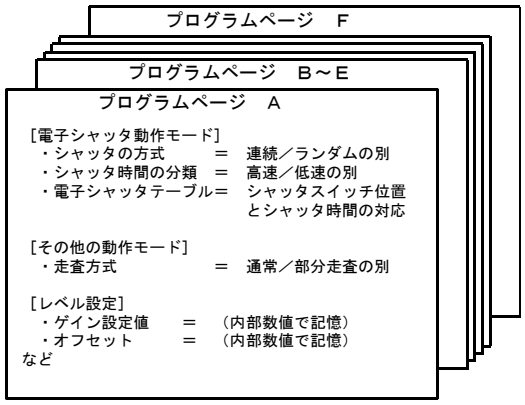


図５－５　プログラムページ

６．設定変更方法

（６－１）シャッタ時間の設定方法
シャッタ時間の設定は主にシャッタスイッチの設定ポジション”０”～”９”により決定します．

表６－１　シャッタ時間の設定値

シャッタスイッチの位置	単位／秒			
	高速シャッタ（連続／ランダム）		低速シャッタ　（連続）	
	DUAL出力	SINGLE出力	DUAL出力	SINGLE出力
０	シャッタなし（連続）			
	1/　5 秒	1/　2.7 秒	1/ 5　秒	1/ 2.7　秒
１	1/ 2000 秒	1/ 1200 秒 (　5H)	1/ 2.6 秒	1/ 1.35 秒 (　2V)
２	1/ 1000 秒	1/　530 秒 (　13H)	1/ 1.7 秒	1/ 0.90 秒 (　3V)
３	1/　500 秒	1/　260 秒 (　28H)	1/ 1.3 秒	1/ 0.68 秒 (　4V)
４	1/　250 秒	1/　130 秒 (　56H)	1/ 1.0 秒	1/ 0.54 秒 (　5V)
５	1/　120 秒	1/　60 秒 (117H)	1/ 0.86 秒	1/ 0.45 秒 (　6V)
６	1/　60 秒	1/　32 秒 (237H)	1/ 0.74 秒	1/ 0.39 秒 (　7V)
７	1/　30 秒	1/　16 秒 (475H)	1/ 0.65 秒	1/ 0.34 秒 (　8V)
８	1/　15 秒	1/　8 秒 (952H)	1/ 0.57 秒	1/ 0.30 秒 (　9V)
９	1/　7.5 秒	1/　4 秒 (1906H)	1/ 0.52 秒	1/ 0.27 秒 (10V)
	ﾊﾟﾙｽ幅制御時間/ﾗﾝﾀﾞﾑ（！）			

（注）表中(　H）は水平時間単位，(　V）は垂直時間（フレーム時間）単位の時間を示しています．
（注）全画素走査時のシャッタ時間を示して有ります．２行加算走査時には，表の時間より長くなります．詳細はＯＳＤ表示でご確認ください．
（注）「シャッタなし」とは，露光時間＝１フレーム時間の連続シャッタモードのことです．
（注）各シャッタ時間の数値は出荷時のデフォルト値です．シャッタ位置=0を除く各ポジション毎のシャッタ時間は動作モード［グループ１］でユーザにて変更する事が可能です．

（！）このカメラでは”ﾊﾟﾙｽ幅制御時間/ﾗﾝﾀﾞﾑ”は”ﾊﾟﾙｽ幅制御（PWC）=”ENABLED”と設定されている必要が有ります．
”ﾊﾟﾙｽ幅制御（PWC）=”DISABLED”と設定されている場合（デフォルト）ではランダムシャッタ動作でも連続シャッタと同じく９段階の選択が可能です．

（６－２）起動時オプション
一般的な使用に於いては本機は電源を通常に投入した（↓用語）状態で用います．モードスイッチを特定の位置に設定した状態で且つＵＰ／ＤＯＷＮスイッチをストロークした状態で電源を投入するとカメラは特定の設定又は動作状態となります．次の表にこれら起動時オプションをまとめます．

［用語］通常に電源を投入　…　ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチを中立位置のままで電源を投入することです．本文中で特に断りなく”電源を投入する”と表記の有る場合はこの電源投入操作を指します．

表６－２　起動時オプション

起動条件　（電源投入時）		起動時オプション	起動時のカメラの動作状態
モードスイッチの位置	ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチ		
０～Ａの位置	中立位置　（操作しない）	通常動作　（設定グループ１）	プログラムページＡの設定
Ｂ～Ｆの位置			各プログラムページＢ～Ｆの設定
９	ＵＰ　又は　ＤＯＷＮ　を保持	ファクトリーデフォルトの読出し	プログラムページＡの設定
Ａ		設定グループ２	
Ｃ		設定グループ３	
Ｄ		設定グループ４	

（６－３）動作モードの設定方法

動作モードの設定項目は下記の通りグループ１，グループ２，グループ３，及びグループ４の４つのグループに分けられます．

グループ１　…　通常に電源を投入して変更する動作モードです．起動後モードスイッチを設定変更する項目（０”～”９”）に対応するポジションとしＵＰ／ＤＯＷＮスイッチを操作する事により設定内容が変更可能です．

グループ２　…　事前にモードスイッチを”Ａ”のポジションにし，ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチレバーを押し上げ（又は押し下げ）た状態で保持し，電源を投入した時に変更可能な動作モードです．設定する項目は左の手順で起動後，モードスイッチを先程の”Ａ”の位置から対応するポジションに変更した後ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチを操作する事により変更可能です．

グループ３，４…　これらの設定状態では主にコンフィギュレーション項目（↓用語）の切替えは行います
事前にモードスイッチを”Ｃ”（または”Ｄ”）のポジションにし，ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチレバーを押し上げ（又は押し下げ）た状態で保持し，電源を投入した時に変更可能な動作モードです．設定する項目は左の手順で起動後，モードスイッチを先程の”Ｃ”（または”Ｄ”）の位置から対応するポジションに変更した後ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチを操作する事により変更可能です．

（注）設定を変更した場合は何れの設定項目でも電源をＯＦＦにする前にプログラムページの”Ａ”～”Ｆ”の何れかにセーブする事により初めてカメラ内部に保存されます．保存せずに電源をＯＦＦとすると変更内容は保存されず，次回の電源投入時は設定変更前の設定内容に戻りますのでご注意下さい．但しコンフィギュレーション項目はスイッチによる設定変更の都度自動保存されます．

［用語］コンフィギュレーション項目　…　プログラムページに依存しない共通設定項目でバックパネルのスイッチ操作により設定変更を行った際は設定変更と同時に内部のＥＥＰＲＯＭに自動的に保存されます．

表６－３　動作モード設定［グループ１］の設定操作

モードスイッチの位置	変 更 内 容	ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチ	
		ＵＰ操作	ＤＯＷＮ操作
０	ゲイン変更	ゲイン増加	ゲイン減少
１	メニュー表示　（MENU）　<* C>	ＯＮ	ＯＦＦ
２	プリセット選択１or２	ﾌﾟﾘｾｯﾄ2 (+19dB)	ﾌﾟﾘｾｯﾄ1 (+16dB)
３	プリセット選択３or４	ﾌﾟﾘｾｯﾄ4 (+25dB)	ﾌﾟﾘｾｯﾄ3 (+22dB)
４	全画素・倍速走査モード　（SCAN /前）	全画素　(NORMAL)	倍速　(DOUBLE)
５	シャッタ　連続／ランダム（S.FORM /前）	連　続　(NORMAL)	ランダム (ASYNC)
６	シャッタ　高速／低速　（S.TIME /後）	高　速　(HIGH)	低　速　(LOW)
７	シャッタ時間変更　（S.TIME /前）	短　縮	延　長
８	デジタル　オフセット　（OFFSET）	オフセット増加	オフセット減少
９	＜使用しない＞		
Ａ～Ｆ	プログラム　ページ　Ａ～Ｆ	書き込み	読み出し

（注）プリセット選択のデシベル値は，目安値です．
（注）シャッタ時間の変更は現在のシャッタスイッチのポジションが”０”以外の時のみ変更可能です．
　　シャッタスイッチが”０”の位置ではモードスイッチを”７”としてUP/DOWNスイッチを操作してもシャッタ時間を変更する事が出来ません（シャッタスイッチ＝”０”では常にシャッタはＯＦＦとなります）．

表６－４　動作モード設定［グループ２］の設定操作

モードスイッチの位置	変 更 内 容	ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチ	
		ＵＰ操作	ＤＯＷＮ操作
１	メニュー表示　（MENU）　<* C>	ＯＮ	ＯＦＦ
２～３	＜使用しない＞　（－）		
４	パルス幅制御の許可／不許可　（PWC）　（！）	許可　(ENABLED)	不許可　(DISABLED)
Ａ～Ｆ	プログラム　ページ　Ａ～Ｆ	書き込み	読み出し

（！）”パルス幅制御の許可／不許可”の設定が”許可（ENABLED)”になっていない時はランダムシャッタでシャッタスイッチを”９”の位置にしてもパルス幅制御の状態とならず固定長のランダムシャッタとなります．

表６－５　動作モード設定［グループ３］の設定操作

モードスイッチの位置	変 更 内 容	ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチ	
		ＵＰ操作	ＤＯＷＮ操作
１	メニュー表示　（MENU）　<* C>	ＯＮ	ＯＦＦ
２	操作確認ブザー音　（BZ）　<* C>	ＯＮ	ＯＦＦ
３	シリアル通信ボーレート　（BAUDP）　<* C>	１９２００ ｂｐｓ	９６００ ｂｐｓ
４～５	＜使用しない＞　（－）	－	－
６	Vinit2の 極性設定　（Vinit2）　<* C>	正論理　(POSITIVE)	負論理　(NEGATIVE)
７	連続シャッタストロボ信号　（STRB-C）　<* C>	ＯＮ	ＯＦＦ

表６－６　動作モード設定［グループ４］の設定操作

モードスイッチの位置	変 更 内 容	ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチ	
		ＵＰ操作	ＤＯＷＮ操作
１	メニュー表示　（MENU）　<* C>	ＯＮ	ＯＦＦ
２	テストパターン　（PATTERN）　<* C>	ＯＮ	ＯＦＦ
３	出力ビット　（BIT）　<* C>	ビット数増加	ビット数減少
４	出力フォーム　（FORM）　<* C>	ＤＵＡＬ	ＳＩＮＧＬＥ
５	自動補正の許可／不許可　（ALC）　<* C>	許可　(ENABLED)	不許可　(DISABLED)
６	＜使用しない＞　（－）	－	－
７	Vsub電圧　（VSUB）　<* C>	電圧値増加	電圧値減少

［解説］Vsub電圧について

Vsub電圧とはCCDへの過度な入光によって生じるブルーミング現象（飽和画像部分で画像がぼやけたり流れた様な状態となる）を抑制する為のバイアス電圧（基板電圧）の事です．
Vsub電圧を高く設定することによりブルーミング現象は抑制されますが，高すぎるとCCD 出力の飽和電圧が低下してCCDの動作範囲が狭くなります．
CCD によって適正なVsub電圧は異なる為，工場出荷時に最適な値に設定されています．

※各設定グループ共通の注意事項
（注）標準出荷モード（デフォルト状態）をアンダーラインで示しています．
（注）出力ビット数の初期値は１０ビットです．１回のＵＰ操作で１２ビットに，ＤＯＷＮ操作で８ビット出力に変更されます．
　　１０ビット出力に戻すには，２回以上ＤＯＷＮ操作を行って８ビットに確定してから１回ＵＰ操作をしてください．
（注）表中<* C>印の有る項目（コンフィギュレーション項目）につてはスイッチによる設定変更の都度ＥＥＰＲＯＭに自動保存されます．
（注）コンフィギュレーション項目以外の設定項目は設定変更後，プログラムページへのセーブ操作を実行しないと電源ＯＦＦとともに変更内容が消失します．

（６－４）プログラムページの設定方法

プログラムページの設定操作はセーブ（現在の設定内容をプログラムページに書き込む）とロード（事前にプログラムページに保存された設定内容を現在の設定内容として読み出す）の２種類に要約されます.
即ち，電源起動後に内容を変更した現在の設定内容をあるプログラムページにコピーする操作が”セーブ”であり，逆にあるプログラムページに記憶されている設定内容を現在の設定内容として読み出す操作が”ロード”です.

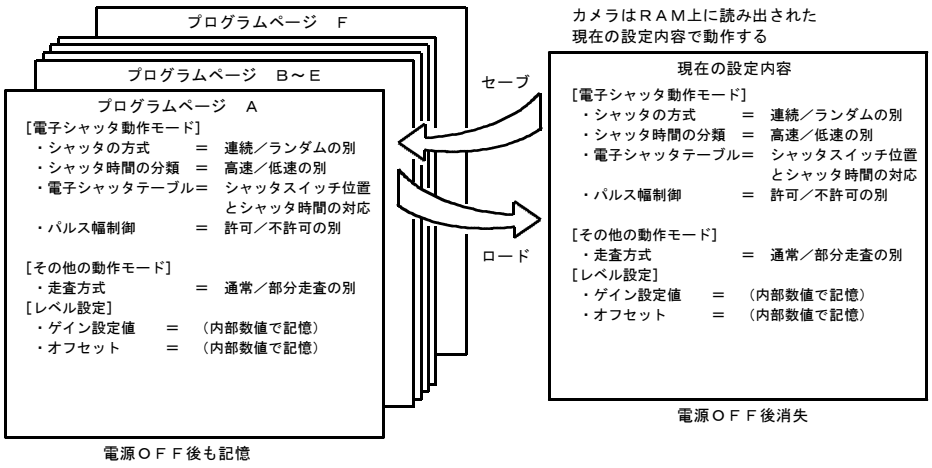


図６－１　セーブ操作とロード操作の概念図

［解説］現在の設定内容とプログラムページの関係
… プログラムページに保存された設定内容はカメラの電源起動時に内部のＲＡＭ（揮発性メモリ）に自動的に読み出され，その内容が現在の設定内容としてカメラの動作を決定します.
モード設定の変更操作を行うと，現在の設定内容は書き換えられ，電源がＯＦＦとなるまでカメラの動作設定内容を一時的に規定します．しかし電源がＯＦＦとなるとＲＡＭ上のページである現在の設定の内容は消失し，カメラの動作は電源投入前の設定状態に戻ります.
従って設定変更を行った内容を保存する場合は必ず”Ａ”～”Ｆ”のプログラムページにセーブする必要が有ります.
プログラムページに記憶させた設定内容は以降で説明する様にロード操作（起動時の自動ロードを含む）を行う事により必要により読出して使用する事が可能となります.

●電源起動時の自動ロード
電源起動時，カメラは”Ａ”～”Ｆ”のプログラムページの設定内容を自動的にロードしその動作が決定されます.
この際，自動ロードされるプログラムページは電源起動時のモードスイッチのポジションによって決定されます.

（注）”Ｂ”～”Ｆ”以外のポジションではプログラムページ”Ａ”が 自動ロードされる点にご注意下さい.

表６－７　自動ロードされるプログラムページ

モードスイッチの位置	自動ロードされるプログラムページ
０～Ａ	プログラムページＡ
Ｂ	プログラムページＢ
Ｃ	プログラムページＣ
Ｄ	プログラムページＤ
Ｅ	プログラムページＥ
Ｆ	プログラムページＦ

●手動操作によるセーブ／ロード
電源投入後，モードスイッチを”Ａ”～”Ｆ”のポジションにセットし，ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチを操作する事により手動によるプログラムページのセーブ／ロードの操作が可能です.

（注）各種設定を変更し，その内容を以後の使用に際して有効とする為にはこのセーブ操作が必要です.

表６－８　プログラムページの設定操作（手動操作）

モードスイッチの位置	変 更 内 容	ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチ	
		ＵＰ操作	ＤＯＷＮ操作
Ａ	プログラムページ Ａ	セーブ	ロード
Ｂ	プログラムページ Ｂ		
Ｃ	プログラムページ Ｃ		
Ｄ	プログラムページ Ｄ		
Ｅ	プログラムページ Ｅ		
Ｆ	プログラムページ Ｆ		

（６－５）ＯＳＤ（オンスクリーンディスプレイ）によるメニュー表示の説明

本カメラは出力するデジタル画像信号にＯＳＤによる文字のスーパーインポーズを行う機能が搭載されています．この機能を用いたメニュー表示で現在のカメラの設定状況をキャプチャーボードの画像上にメニュー形式で表示する事が出来ます．

（注）本機は基本的に従来のＦＣシリーズカメラと同様にメニュー表示を用いないでも全ての設定が可能な様に設計されています．しかしメニュー表示を用いると現在の設定内容を一目で把握する事が出来，又，カメラを用いたデータ採取の前にメニュー表示をキャプチャーし保存して置く事で後のデータ比較やな追加機の導入などの際に設定の参考とする事が出来ます．

ＯＳＤ表示の表示位置

[メニュー表示の条件]
ユーザ側のキャプチャーボードでカメラから出力するＦＤＶ／ＬＤＶのタイミングに常時呼応しキャプチャー画像が更新されるシステムが必要です．
カメラの設定をランダムシャッタ動作に設定した場合はメニュー表示が更新される様にカメラ内部で自動的に一定周期で繰り返しランダムシャッタ動作を発生し画像を自動更新します．この間外部から印加したトリガ信号入力は無視されます．
また，ＯＳＤ表示はキャプチャー画像全体の左上の位置に表示されますのでメニューを表示する場合はこの部分がモニター上に表示出来るシステム設定である必要が有ります．

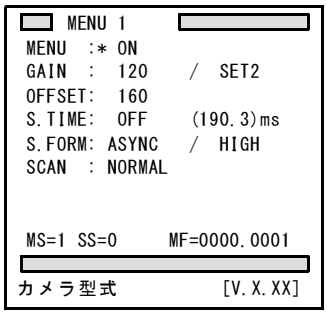
[メニュー表示のＯＮ／ＯＦＦ]
現在，ＯＳＤメニュー表示がキャプチャーボード上に現れていない場合は次の手順で表示が現れます．

通常に電源を投入　→　モードスイッチを”１”の位置にセットする　→　ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチを上側にストロークする

メニュー表示の出力をＯＦＦにする場合は上同一手順でスイッチを下側にストロークします．

（注）メニューのＯＮ／ＯＦＦ設定はコンフィギュレーション項目の為，設定変更は自動的に内部ＥＥＰＲＯＭに保存されます．
（注）カメラをランダムシャッタ動作状態でメニュー表示をＯＮとするとカメラ内部で発生した繰り返しトリガ（サイクリックトリガ）が自動的に入力される状態となりますので，通常の状態（オンライン状態）でご使用になる場合は必ずメニュー表示をＯＦＦとしてご使用下さい．
（注）設定によりパルス幅制御モードのランダムシャッタ動作を使用している時（S.FORM=ASYNC/HIGH，PWC=ENABLED），メニュー表示でカメラ内部で発生するパルス幅と実際のユーザより供給するパルス幅が通常一致しない為，両者の間で画像の明るさ（シャッタ速度）が異なる点にご注意下さい．

[表示内容の解説]



グループ１のメニュー表示

MENU 1,2,3 or 4： 現在の設定内容表示します．
”１”の時は設定ｸﾞﾙｰﾌﾟ１の設定内容
”２”の時は設定ｸﾞﾙｰﾌﾟ２の設定内容
”３”の時は設定ｸﾞﾙｰﾌﾟ３の設定内容
”４”の時は設定ｸﾞﾙｰﾌﾟ４の設定内容
表示されています．

MENU： 現在のメニュー表示状況を示します．
メニュー表示中は常に”ON”が表示されます．
この右側に”(CYCLIC)”と表示している時はカメラが内部トリガを使用してサイクリックにランダムシャッタ画像を出力して画像を更新している事を示します．
ランダムシャッタ動作に設定してメニューをＯＮとすると自動的にサイクリックトリガ印加の状態となり，メニューをＯＦＦとすると自動的にサイクリックトリガの印加が解除され，外部トリガの入力待ちとなります．

GAIN: 前半の数字はゲインの設定値を１０進数で表示しています．
後半はゲインとオフセットの設定値がプリセット（４種類）と一致している場合”ＳＥＴ”の後ろに一致しているプリセット番号を表示します．

OFFSET: デジタル信号オフセットの設定値を１０進数で表示しています．

S.TIME: 現在のシャッター時間を表示しています．前半はＨ数（水平同期時間単位／高速シャッタの場合，範囲１～水平ライン数の１０進数）又はＶ数（垂直同期時間単位／低速シャッタの場合，範囲１～５０の１０進数），後半（内）は実時間表示です．
実時間表示の内容はその時のスキャンモード（全画素／部分）やシャッタモード（ＨＩＧＨ／ＬＯＷ）の設定に従って換算され表示されます．

（注）ランダムシャッタのパルス幅制御モードに設定されている時や部分走査などでシャッタの設定数値が規定外の範囲に設定されている場合は実時間表の数値の表示が”--.-”となります．

S.FORM: 現在のシャッター方式を表しています．前半は連続（NORMAL）とランダム（ASYNC）の別，後半は高速（HIGH）と低速（LOW）の別を表示しています．

SCAN: 現在の走査方式を表示しています．全画走査（NORMAL），倍速走査（DOUBLEL）で表示されます．（→別項；”走査モード設定項目の優先関係”）

GAIN B： 右側画像のゲイン補正値を設定します.

OFFSET B：右側画像のオフセット補正値を設定します.

PWC： ランダムシャッタ動作でシャッタスイッチ”９”のポジションをパルス幅制御モードで使う（ENABLED）か，又は使用しない（DISABLED）を設定します.

BZ： スイッチ操作時の確認音の許可（ＯＮ）／禁止（ＯＦＦ）の設定を切り替えます.

BAUD： ＲＳ－２３２Ｃ通信で使用するボーレート設定を表示しています.

Vinit2: カメラリンクのCC1経由トリガ信号の極性を設定します.
工場出荷状態では負論理（NORMAL）ですが反転（INVERTED）側にすると正論理入力となります.

STRB-C: 連続シャッタ動作時のストロボ信号(STRB)の出力のＯＮ／ＯＦＦを設定します.（ON）で連続シャッタ動作時でもストロボ信号が出力されます.

（注）ランダムシャッタ動作時のストロボ信号はこの設定に関わらず，常に出力されます.

PATTERN: テストパターン出力のＯＮ／ＯＦＦ設定を切り替えます.

bit: 映像出力のビット数 ８／１０／１２ｂｉｔの設定を切り替えます.

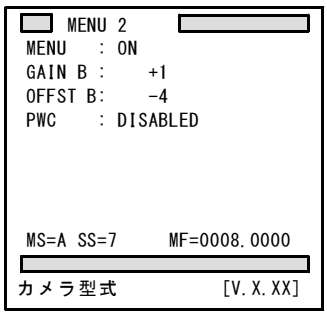
FORM: ＣＣＤ出力方式 ＤＵＡＬ／ＳＩＮＧＬＥを切り替えます.

ALC (Automatic Level Correction):
自動補正機能のＯＮ／ＯＦＦ設定を切り替えます.

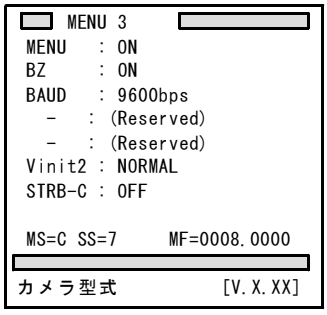
VSUB： Vsub電圧（CCD素子の基板電圧）の設定値を表示します.
工場出荷時に適正値となる様に設定されていますので，通常，変更する必要は有りません.（”Vsub電圧”については，表６－６．下の［解説］を参照下さい）

※以下の項目は表示のみで直接変更は出来ません．スイッチの設定変更などに伴い自動的に表示内容が更新されます.

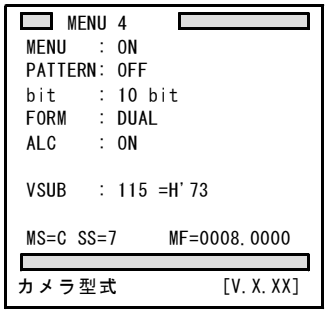
MS= 現在のモードスイッチの位置を示します.
SS= 現在のシャッター設定スイッチ（EXP.）の位置を表示します.
MF= カメラ内部のモードフラグ（動作内容を決定する内部フラグ）の情報（１６ビット×２セット）を１６進数で表示します．この内部フラグの意味は後述します.）
Tc= 現在のカメラ内部の温度を摂氏形式で表示します．温度データは０．４秒毎に更新表示されます.



グループ２のメニュー表示



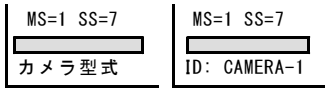
グループ３のメニュー表示



グループ４のメニュー表示

[ＩＤ情報表示]
本機ではユーザがカメラ毎に固有に設定した識別コードなどをカメラに保存する事が出来ます（設定はシリアル通信により行います）．設定可能な文字列は最大１５文字までの英数字（大文字と小文字）と制御用コードを除く”＋”，”－”など一部の特殊文字です.
（→詳細は”シリアル通信制御”の項をご覧ください）

設定したＩＤコードは”設定グループ１のメニュー表示”の左下部にＯＳＤ表示されるので設定内容が確認出来ます（ＩＤ：以降）.
（ＩＤコードが設定されていない時はカメラ型式が表示されます）.
右図はＩＤ情報として”CAMERA-1”を設定した場合の表示例です.



ＩＤ未設定　ＩＤ設定時

[設定の変更]
ＯＳＤの内容を確認しながら現在の設定内容を変更する場合は別項の”（６－３）動作モードの設定方法”に従って行います.
モードスイッチを切り替えるとその位置に対応した変更項目の数値またはパラメータ部分の前に”＊”マークが点滅表示されその設定がＵＰ／ＤＯＷＮスイッチで変更可能であることを示します.
ゲイン設定等の数値はＵＰ／ＤＯＷＮの各１ストロークで１ずつ増減しますが，数値を連続的に変更したい場合はスイッチをストロークしたまま約２秒間保持すると”ピピッ”という反応音の後早送り状態となり，数値が連続的に増減します.

[変更後設定値の保存]
メニュー表示で設定した内容は変更を行ったその都度不揮発性のＲＯＭ領域に自動的に保存されるもの（コンフィギュレーション項目）と，前項で説明したプログラムページへのセーブ操作を行わないと保存されないものとの２種類が有ります.（↓次頁．表）
表６－９

自動保存の有無など	項目	備考
メニュー操作で自動保存される項目	ＭＥＮＵ，ＢＺ，ＢＡＵＤ，Ｖｉｎｉｔ２ ＳＴＲＢ－Ｃ，ＰＡＴＴＥＲＮ，ＢＩＴ	（ＣＲ）に反映
	ＶＳＵＢ	数値で保存
メニューで変更後プログラムページへのセーブ操作をしないと保存されない項目	ＧＡＩＮ，ＯＦＦＳＥＴ，Ｓ．ＴＩＭＥ ＧＡＩＮＢ，ＯＦＦＳＥＴＢ	数値で保存 数値で保存
	Ｓ．ＦＯＲＭ，ＳＣＡＮ，ＰＷＣ	ＦＲ）に反映

（注）”ＶＳＵＢ”の数値はプログラムページと独立したエリアに保存されます.

（６－６）内部フラグレジスタとコンフィギュレーションレジスタ

カメラ内部には動作モードを規定するフラグレジスタ（ＦＲ）（２バイト）とコンフィギュレーションレジスタ（ＣＲ）（２バイト）のＲＡＭ領域があります.
これらのレジスタの内容を調べると現在の動作状態を判別出来る他，シリアル通信コマンドでこのレジスタの内容を書き換変える事で複数の動作モードを一度に変更する事も可能になります.
ここでは各フラグレジスタとコンフィギュレーションレジスタの機能について説明します.

・フラグレジスタ（ＦＲ）とコンフィギュレーションレジスタ（ＣＲ）
ＦＲとＣＲは何れも２バイト（１６ビット）のＲＡＭ上の記憶領域で，起動時に内部のＥＥＰＲＯＭ（不揮発性）に保存されている内容が読み出されこれらの領域にコピーされます．カメラはＦＲ，ＣＲの内容に従って現在の動作モードを決定します.
ＦＲの内容は各プログラムページ（Ａ～Ｆ）に各１つずつ保存され，電源起動時の自動ロードやプログラムページのロード操作でその内容がフラグレジスタにコピーされ，動作状態が決定されます．これに対してＣＲのＥＥＰＲＯＭ上の保存領域は１つだけで，プログラムページとは独立して読み出され動作モードを決定します.

・各レジスタの設定内容はカメラバックパネルのスイッチを用いた設定操作（メニュー表示のＯＮ／ＯＦＦの状態には関わらない）とシリアル通信コマンドにより書き換える事が出来ます.

・（ＦＲ）と（ＣＲ）の内容はメニュー表示をＯＮにすると”ＭＦ＝０００００．００００”などの様に８個の数値で現在の状態が表示されます．各数値は１６進数表示で前半（上位）の２バイトがコンフィギュレーションレジスタ（ＣＲ），後半（下位２バイト）がフラグレジスタ（ＦＲ）の設定内容を表しています.

表６－１０　ＣＲの内容

ビット	略　号	内　　容	論　理	備　考
０	MNI	メニュー画面表示の禁止	１で禁止（ＯＦＦ）	
１	BZI	ブザー出力の禁止	１で禁止（ＯＦＦ）	
２	TPEN	テストパターンのＯＮ／ＯＦＦの選択	１でテストパターンＯＮ	
３	DFRM0	出力データフォーマットの選択	01: 8bit　00:10bit 10:12bit　11:未使用	
４	DFRM1			
５	TWEN	（使用しません）		
６	STRBC	連続シャッタ時のSTRB信号出力許可	１で使用許可	
７	CC1P	CC1経由トリガ信号（Vinit2）の極性選択	１で正極性	
８	－	（使用しません）		
９	BAUD	シリアル通信速度 9600bps/19200bps の選択	１=19200bps	＊１
１０	－	（使用しません）		
１１	－	（使用しません）		
１２	ALC	左右自動補正許可	１で許可	
１３	CCDO1	（使用しません）		
１４	CCDO0	ＣＣＤ出力モード	１でSINGLE出力	
１５	DEFR	次回起動時のデフォルト値読出し要求	１で要求	＊１

（注）ＣＲの内容はデフォルト（工場出荷時）状態で全て”０”となっています.
　　＊１は通信コマンドでの変更ができません.

表６－１１　ＦＲの内容

ビット	略　号	内　　容	論　理	備　考
０	ASYE	連続／ランダムシャッタの選択	１でランダム（ASYNC）	
１	PWCE	パルス幅制御の許可／不許可	１でパルス幅制御の許可	
２	LEXE	高速／低速シャッタの選択	１で低速シャッタ	
３	－	（使用しません）		
４	DSCE	通常走査／倍速走査	１で倍速走査	
５	－	（使用しません）		
６	－	（使用しません）		
７	－	（使用しません）		
８	ESP(0)	外部指定シャッタ時間ポジション	H'0～H'9 又は H'F	ESPE=1の時，外部指定した0～9の数値（指定ポジション）が反映されます. H'Fの場合Ｈ単位の外部ｼｬｯﾀ時間が選択されています.
９	ESP(1)			
１０	ESP(2)			
１１	ESP(3)			
１２	ESPE	外部指定シャッタ時間有効	１で有効	
１３	－	（使用しません）		
１４	－	（使用しません）		
１５	AGCE	（使用しません）		

（注）ＦＲの内容はデフォルト（工場出荷時）状態で全て”０”となっています.

（例）メニュー画面で　”ＭＦ＝Ｈ’０００８．０００３”　と表示されている時（各数値を２進数に変換して）次の様な状態となっています.
Ｈ’００＝Ｂ’００００００００，　Ｈ’０８＝Ｂ’００００１０００，　Ｈ’０３＝００００００１１　を上の数値にそれぞれ代入して，　ＣＲ＝Ｂ’０００００００００００１０００，ＦＲ＝Ｂ’０００００００００００００１１

…　ＣＲ（３）＝ＦＲ（１）＝ＦＲ（０）＝１，その他のビット＝全て０　となります.
（ここで，ＣＲ（ｎ），ＦＲ（ｍ）はそれぞれＣＲの第ｎビット，ＦＲの第ｍビットを表現するとします.）
これらビットの１／０と上記の表を参照して．現在カメラは”８ビット出力”，”ASYNC”，”パルス幅制御許可”の状態となっている事が分かります.

［解説］
（ＣＲ）や（ＦＲ）の設定数値（各ビットの１／０）はカメラのバックパネル面上のスイッチを用いた設定操作を行うとその変更内容に従って変化します．また，（ＣＲ）や（ＦＲ）の各ビットを操作することにより，ＲＳ－２３２Ｃの個別コマンドにない動作モードの切替えでも可能となります.

（例１）メニュー上で”ＭＦ＝００００．００００”と表示されている状態で連続シャッター→ランダムシャッタに設定変更するとその結果”ＭＦ＝００００．０００１”となります（ASYEビット=1）.

（例２）メニュー表示がＯＮとなっている時，シリアル通信コマンドを用いてＣＲ（０）を０→１に変更するとメニュー表示がＯＦＦ（MND=1）となります．

（６－７）各走査モードの説明と機能制限

●走査モードの解説

このカメラの動作は設定によって次の２種類のスキャンモードを選択することが出来ます．

表６－１２

走査モード	動作	ﾌﾚｰﾑﾚｰﾄ
通常走査モード　(NORMAL)	１０７０万画素の全画素読出し	５fps
倍速走査モード　(DOUBLE)	２ライン加算読み出し	９fps

・通常走査モード　　…　有効画素全ての画像をフレームレート５Ｈｚで読出します．
・倍速走査モード　　…　有効画素全ての画像を９Ｈｚ（倍速）で読出します．

●走査モードによる機能制限

現在設定されている走査モードによって使用出来る機能が異なっています．
次表に示す機能で○印が使用可能なもの．×印が使用出来ないモードです．

表６－１３

現在の走査モード	シャッタなし	連続シャッタ	ランダムシャッタ	長時間露光
通常走査モード　(NORMAL)	○	○	○	○
倍速走査モード　(DOUBLE)	○	○	×	×

（注）これら現在の走査モードで使用出来ない動作が設定された場合，動作は保証されませんので注意して下さい．
（注）特にシリアル通信コマンドのフラグレジスタの書き込みコマンドで制御した際などでは走査モードの設定と機能の選択の可否の矛盾はチェックされない為，誤ったパラメータを設定すると誤動作の原因となりますので注意して下さい．

（６－８）代表的な設定手順例

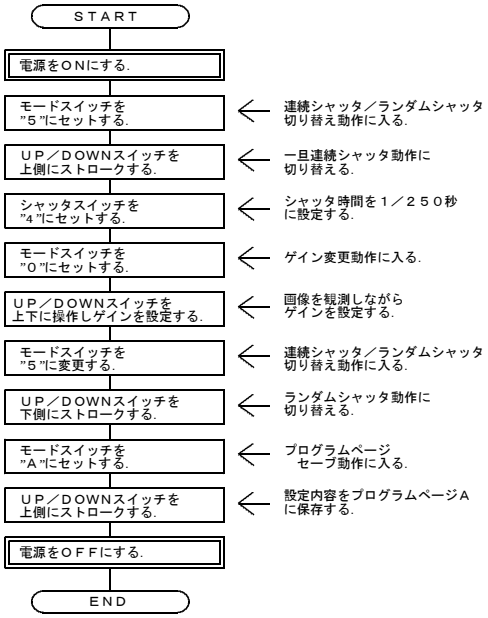


図６－２　ゲイン設定手順例

（例）ランダムシャッタ（１／２５０秒）で用いる為にゲイン設定をする

［解説］
左の操作手順例ではカメラをランダムシャッタ動作で用いる場合を想定しています．左の例では，動作モードを一旦連続シャッタ動作とする事によりゲインの設定などを容易にしています．外部からのトリガ信号（Ｖｉｎｉｔ）をユーザ側より繰り返し印加する事によって容易に画像の出力状況が観測出来る場合は最初のシャッタ動作モード切り替えで”ランダムシャッタ”としてからゲイン設定などを行って下さい．

（注）ランダムシャッタ動作でパルス幅制御モードとする場合は上の例の様に一旦連続シャッタモードとする方法は使用出来ません（ランダムシャッタ時と連続シャッタ時でポジション”９”でのシャッタ時間が異なる為）．パルス幅制御モードで使用する場合はランダムシャッタ動作に設定後，実際にユーザ側よりトリガ信号（Ｖｉｎｉｔ）を印加しながらゲインなどの設定を行って下さい．

（！）本機では設定によりランダムシャッタ動作でポジション”９”でもパルス幅制御モードをＯＦＦとする事が出来ます（デフォルトの状態）．

（注）本機ではメニュー表示の際自動的に周期的なランダムシャッタトリガが内部発生する状態（サイクリックトリガ状態）となります．
従ってメニュー表示を行っている場合は上の様にシャッタ動作を一旦連続に切り替える必要はありません．

（６－９）ファクトリーデフォルトの読出し

ＲＡＭ上に読み出される設定内容

[電子シャッタ動作モード]
・シャッタの方式　　＝　連続
・シャッタ時間の分類　＝　高速
・電子シャッタテーブル＝　（表６－１）の内容
・パルス幅制御　　＝　ＤＩＳＡＢＬＥＤ

[その他の動作モード]
・走査方式　　＝　通常走査

[レベル設定]
・ゲイン設定値　＝　（工場設定値）
・オフセット　＝　（工場設定値）

[コンフィギュレーション]
・メニュー表示　＝　ＯＮ
・ＢＺ　　＝　ＯＮ
・ボーレート　＝　９６００ｂｐｓ
・Vinit2　極性　＝　ＮＯＲＭＡＬ（負論理）
・テストパターン＝　ＯＦＦ
・連続シャッタストロボ信号＝ＯＦＦ
・ＣＣＤ読み出し＝ＤＵＡＬ
・自動補正　　＝ＯＮ

カメラご購入後，ユーザにて変更された設定内容を初期化したい場合に，弊社ファクトリーデフォルト（工場出荷状態）を読み出すための操作です．
本機では
ａ．ファクトリーデフォルト値をカメラ内部のＲＡＭ上に読み出す．
ｂ．ファクトリーデフォルト値をカメラ内部のＲＡＭ上に読み出し，その内容を全てのプログラムページに書き込む．
の何れかを選択して実行する事が出来ます．

（注）ａ．の操作は，電源起動時の自動ロード用メモリ（プログラムページ”Ａ”～”Ｆ”）と別の場所にある”弊社工場出荷状態を記憶しているページ”をロードして起動します．カメラ内部のＲＡＭ上に読み出されている状態ですので，電源ＯＦＦ後も継続して弊社工場出荷状態で使用したい場合は，プログラムページ”Ａ”～”Ｆ”にセーブして使用してください．
ｂ．の操作では読み出したパラメータをプログラムページ”Ａ”～”Ｆ”に自動的にセーブします．それまでユーザにて保存した設定内容は全て上書きされ消失しますのでご注意下さい．

図６－３　工場出荷時設定の読出し直後の設定内容

[ａ．の操作（ＲＡＭ上にデフォルト値を読み出す）]

＜手順１＞モードスイッチ＝”９”のポジションとし，且つ，ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチを上下どちらかの方向に操作した状態で電源を投入し数秒間保持します．
＜手順２＞ピピッと言う反応音がし，ＬＥＤがオレンジ色点滅の状態になったらＵＰ／ＤＯＷＮスイッチを中立位置に戻してください．
＜手順３＞実行を行う場合はこのまま再度ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチを上下どちらかに１ストロークします．実行を中止する場合はカメラの電源を切ります．
＜手順４＞カメラは自動的に再起動し，動作モードは，グループ１となります．

（注）読み出した内容を保存する場合は引き続きモードスイッチをＡ（その他，保存するページに対応する位置）に合わせてＵＰ／ＤＯＷＮスイッチを上側に１ストロークします（プログラムページへの保存）．

[ｂ．の操作（ＲＡＭ上にデフォルト値を読み出し，全てのプログラムページに保存する）]

＜手順１＞モードスイッチ＝”９”のポジションとし，且つ，ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチを上下どちらかの方向に操作した状態で電源を投入し数秒間保持します．
＜手順２＞ピピッと言う反応音がし，ＬＥＤがオレンジ色点滅の状態になったらＵＰ／ＤＯＷＮスイッチを中立位置に戻してください．
＜手順３＞このままモードスイッチを”０”の位置に変更します．ＬＥＤが赤色点滅の状態となります．
＜手順４＞実行を行う場合はこのまま再度ＵＰ／ＤＯＷＮスイッチを上下どちらかに１ストロークします．実行を中止する場合はカメラの電源を切ります．
＜手順５＞カメラは再起動し，動作モードは，グループ１となります．

７．シリアル通信制御

ＦＣ１１０００ＣＬは，カメラリンク経由のシリアルインターフェイスによって，外部からコントロールすることができます．

（注）通信機能を使用してカメラの動作状態を変更する際には内部の動作切替の為に若干の時間が必要となります．通常，コマンドを送信した前後１フレームの映像信号は，正規の映像が得られないことがありますのでご注意下さい．
（注）シリアル通信コマンドの設定やタイミングは従来のRS-232C通信機能を持つ製品（ＦＣ２０００ＣＬなど）と共通です．

●シリアル通信設定は下の通りとして下さい．

ボーレート	：	９６００ｂｐｓ 又は １９２００ｂｐｓ（設定グループ２にて指定．デフォルトは９６００ｂｐｓ）
データ	：	８ｂｉｔ／キャラクター
ストップビット	：	１ｓｔｏｐ ｂｉｔ
パリティ	：	無し
ＸＯＮ／ＸＯＦＦ	：	制御無し

●シリアル通信　コマンド
コマンドパケットはＳＴＸ（０２ｈ）で始まり，コマンドコード，コマンドオプションパラメータへと続き最後にＥＴＸ（０３ｈ）で終了します．パケット内部はすべて８ビットのＡＳＣＩＩコードです．
カメラが１パケットを受信（ＥＴＸ：０３ｈを検知）した場合，正常なパケットと判断した時は，処理完了信号（ＡＣＫ：０６ｈ）を返信，または，受信コマンドに応じた，返信を行います．異常なパケットと判断したときは，異常信号（ＮＡＫ：１５ｈ）を返信します．

●動作モード「グループ１～４」とシリアル通信コマンドの受付
シリアル通信コマンドは（動作モード「グループ１」）（＝”通常の電源投入状態”）の間のみ受け付けられます．
但し（動作モード「グループ２～４」）でも”ＡＲＥＳＥＴ”（電源投入状態に戻す）コマンドに限り受付けます．

●各コマンドの解説

（１）コマンド　”ｅ”
ファンクション：ページメモリの初期化

ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”ｅ”：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：ＥＴＸ　（処理完了），または，ＳＴＸ：ＮＡＫ：ＥＴＸ　（処理不能）

※次回電源投入時にＣＰＵは、各ページメモリを初期化します．ここで云う”初期化”はカメラ内部のＥＥＰＲＯＭに保存されて　いるパラメータを，弊社出荷時の値に戻す事を言います．

（２）コマンド　”Ｒ”
ファンクション：カメラ動作、設定状態をレポートするコマンド
コマンドコード”Ｒ”の次にオプションコードを付けることでレポートの内容を選択できます。
Ｇ：ゲイン　　・レポート
Ｖ：カメラ・バージョン・レポート
Ｔ：シャッタSWセット・レポート
Ｓ：シャッタ　　・レポート

（３）ゲイン・レポート
ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”Ｒ”：”Ｇ”：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：”Ｒ”：ＭＧＣ設定値：（ＡＧＣ設定値）：（ＶＲＴ設定値）：
（ＶＲＢ設定値）：ＯＦＦＳＥＴ設定値：ＥＴＸ

（！）（　）内の値はＦＣ１１０００ＣＬでは使用しません．本機では固定値が返送されます．

（４）カメラ・バージョン・レポート
ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”Ｒ”：”Ｖ”：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：”Ｒ”：
”Ｔａｋｅｎａｋａ　ＳＹＳ．ＦＣ１１０００ＣＬ　Ｖ１．００　”：ＥＴＸ

※下線部の数値はカメラのコントロールプログラムバージョン番号やファイル名を示しています．これらの値やキャラクタ数ははプログラムのバージョンにより異なります．カメラ通信モードの確認，カメラ内部の情報を取得する際にご利用ください．
ＡＣＫ～ＥＴＸの間に入るキャラクタ数の最大値は４８です．

（５）シャッタSW・レポート
ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”Ｒ”：”Ｔ”：”Ｈ”：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：”Ｒ”：”Ｈ”：
ＳＷ０：ＳＷ１：ＳＷ２：ＳＷ３：ＳＷ４：ＳＷ５：ＳＷ６：ＳＷ７：ＳＷ８：ＳＷ９：ＥＴＸ

（６）シャッタモードレポート
ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”Ｒ”：”Ｓ”：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：”Ｒ”：”□”：”□”：”□”：”露光時間”：ＥＴＸ
※１　※２　※３　※４

※１～３：（８）コマンド　”Ｓ”を参照してください．
※４　露光時間
・電子シャッタ露光時間が外部設定されている場合
露光時間が１Ｈ（水平走査時間）単位で設定されている場合は，そのＨの露光設定カウント値を返送します。
例　　シャッタ露光時間が１６Ｈの場合　　”００１０”
・電子シャッタ露光時間がコネクタパネルのシャッタスイッチ番号で設定されている場合
例　シャッタスイッチ＝４にセットされている場合　　”Ｉ４．．”
・電子シャッタ露光時間がＲＳ－２３２Ｃコマンドによりシャッタスイッチ番号で設定されている場合
例　シャッタスイッチ＝３が指定されている場合　　”Ｓ３．．”

（７）コマンド ”Ｇ”
ファンクション：ゲイン設定コマンド

ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”Ｇ”：ＭＧＣ設定値：（ＡＧＣ設定値）：（ＶＲＴ設定値）：（ＶＲＢ設定値）：
ＯＦＦＳＥＴ設定値：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：ＥＴＸ　（処理完了），または，ＳＴＸ：ＮＡＫ：ＥＴＸ　（処理不能）

（！）（ ）内の値は本機では使用しません．本機へは”．”を送信して下さい．

ＭＧＣ設定値は，１６進数２桁のＡＳＣＩＩコード　”２０”～”Ｅ０”（　３２～　２２４；１０進）でセットします。
OFFSET設定値は，１６進数２桁のＡＳＣＩＩコード　”２０”～”Ｅ０”（　３２～　２２４；１０進）でセットします。
例　レベル１２８（１０進）をセットする場合　　”８０”
　　レベル２００（１０進）をセットする場合　　”Ｃ８”
また、設定変更する必要の無いデータ設定部は、”．”（ピリオド）をセットすることで、送信前の設定値を保持させることができます。
例　ＭＧＣだけをレベル９０（１０進）にセットする場合
　　ＳＴＸ：”Ｇ”：”５Ａ”：”．”：”．”：”．”：”．”：ＥＴＸ

（８）コマンド ”Ｓ”
ファンクション：シャッタモード，シャッタ露光時間設定コマンド

ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”Ｓ”：”Ａ”or”Ｍ”：”Ｈ”or”Ｌ”：”Ｎ”or”Ｄ”：露光時間：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：ＥＴＸ　（処理完了），または，ＳＴＸ：ＮＡＫ：ＥＴＸ　（処理不能）

送信コマンドは以下の意味を持っています．
ＳＴＸ：”Ｓ”：”Ａ”or”Ｍ”：”Ｈ”or”Ｌ”：”Ｎ”or”Ｄ”：露光時間：ＥＴＸ
　　※１　　※２　　※３　　※４

※１　Ａ：ランダムシャッタ
　　Ｍ：連続シャッタ
※２　Ｈ：高速シャッタ
　　Ｌ：低速シャッタ
※３　Ｎ：通常走査
　　Ｄ：倍速走査
※４　露光時間
　”露光時間”のフォーマットは次の何れかに従います．
　　ａ．２バイトの数値を表す１６進数に対応する４キャラクター
　　ｂ．外部からのシャッタポジションを指定する４キャラクター　”Ｓ””０～９””．．”（最後の”．”２個は必須）

・電子シャッタ露光時間を外部設定する場合
露光時間を１Ｈ（水平走査時間）単位で設定する場合には，そのＨの露光設定カウント値を設定します．
例　シャッタ露光時間が１６Ｈとする場合
ＳＴＸ：”Ｓ”：”．”：”．”：”．”：”０００１０”：ＥＴＸ
・電子シャッタ露光時間をコネクタパネルのシャッタＳＷ番号で設定する場合
例　シャッタＳＷ　４にセットする場合
ＳＴＸ：”Ｓ”：”．”：”．”：”．”：”Ｓ４．．”：ＥＴＸ
・シャッタモードを，ランダム・高速シャッタで露光時間を３Ｈに設定する場合
ＳＴＸ：”Ｓ”：”Ａ”：”Ｈ”：”．”：”０００３”：ＥＴＸ
・カメラ本体の背面パネルコントロールに戻す場合
ＳＴＸ：”Ｓ”：”．”：”．”：”．”：”０００００”：ＥＴＸ

（注）Ｓコマンドを用いて外部より露光時間を設定した場合カメラの露光時間は最終的にＳコマンドで指定したポジション又は直接指定値にロックされた状態となります．上記の通り再度ＲＳ－２３２Ｃを用いて露光時間を”００００”に指定する事によりこのロック状態は解除されます．
ＲＳ－２３２Ｃで露光時間を指定した後，ＲＳ－２３２Ｃを用いずにこのロック状態を解除するには，”ファクトリーデフォルトの読出し”操作を行って下さい．
（注）露光時間を直接指定する場合，数値は次の範囲のみ許容されます．この範囲外の動作は保証されません．
通常走査の時：Ｈ’０００００～Ｈ’０８７Ｂ　（Ｄ’０～２１７１）（但し”０”は外部指定解除の際のみ使用する）
倍速走査の時：Ｈ’０００００～Ｈ’０５５１　（Ｄ’０～１３６１）（但し”０”は外部指定解除の際のみ使用する）

（９）コマンド ”Ｅ”
ファンクション：シャッタメニュー編集コマンド

ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”Ｅ”：”Ｈ”：ＳＷ０：ＳＷ１：ＳＷ２：ＳＷ３：
ＳＷ４：ＳＷ５：ＳＷ６：ＳＷ７：ＳＷ８：ＳＷ９：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：ＥＴＸ　（処理完了），または，ＳＴＸ：ＮＡＫ：ＥＴＸ　（処理不能）

※ＳＷ０～ＳＷ９は，シャッタSW番号にセットする露光時間（Ｈ）を１６進数４桁でセットします．
※ＳＷ０の露光時間は変更できません．

例　高速シャッタのＳＷ５の露光時間だけを８８（１０進）に変更する場合
ＳＴＸ：”Ｅ”：”Ｈ”：”．”：”．”：”．”：”．”：”．”：”．”
：”００５８”：”．”：”．”：”．”：”．”：ＥＴＸ

（１０）コマンド ”Ｗ”
ファンクション：動作モード記憶（Ｗｒｉｔｅ　ｉｎｔｏ　ｐａｇｅ　ｍｅｍｏｒｙ）コマンド

ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”Ｗ”：記憶ページ（”Ａ”～”Ｆ”）：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：ＥＴＸ　（処理完了），または，ＳＴＸ：ＮＡＫ：ＥＴＸ　（処理不能）

現在の設定を指定されたページ番号のＥＥＰＲＯＭに書き込み保存します．

（１１）コマンド ”Ｌ”
ファンクション：動作モード読み出し（Ｌｏａｄ）コマンド

ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”Ｌ”：読み出しページ（”Ａ”～”Ｈ”）：ＥＴＸ

カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：ＥＴＸ　（処理完了），または，ＳＴＸ：ＮＡＫ：ＥＴＸ　（処理不能）

※ページ　Ｈ　には工場出荷時のデータが記録されていますので，出荷時の状態に戻したい場合にご使用下さい．

（１２）コマンド　”ＷＭＣ”
ファンクション：ｺﾝﾌｨｷﾞｭﾚｰｼｮﾝﾌﾗｸﾞﾚｼﾞｽﾀ（ＣＲ）（Ｗｒｉｔｅ　Ｍｏｄｅ　Ｃｏｎｆｉｇｕｒａｔｉｏｎ）コマンド

ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”ＷＭＣ”：フラグ設定値：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：ＥＴＸ　（処理完了），または，ＳＴＸ：ＮＡＫ：ＥＴＸ　（処理不能）

”フラグ設定値”の内容（２バイト／４キャラクタ）をコンフィギュレーションレジスタに書き込みます．
（注）このコマンドではＥＥＰＲＯＭへの書き込みは行われませんのでこのコマンドで設定した内容は電源ＯＦＦ後消失します．設定した値をＥＥＰＲＯＭに保存するには別のコマンド”ＳＭＣ”を実行します．

（１３）コマンド　”ＷＭＦ”
ファンクション：ﾓｰﾄﾞﾌﾗｸﾞﾚｼﾞｽﾀ（ＦＲ）の書き込み（Ｗｒｉｔｅ　Ｍｏｄｅ　Ｆｌａｇ）コマンド

ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”ＷＭＦ”：フラグ設定値：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：ＥＴＸ　（処理完了），または，ＳＴＸ：ＮＡＫ：ＥＴＸ　（処理不能）

”フラグ設定値”の内容（２バイト／４キャラクタ）をフラグレジスタに書き込みます．
（注）このコマンドではＥＥＰＲＯＭへの書き込みは行われませんのでこのコマンドで設定した内容は電源ＯＦＦ後消失します．ＥＥＰＲＯＭに保存するには別のコマンド”ＷＡ～ＷＦ”を用い指定するメモリページへの保存を実行します．

（１４）コマンド　”ＲＭＣ”
ファンクション：ｺﾝﾌｨｷﾞｭﾚｰｼｮﾝﾌﾗｸﾞﾚｼﾞｽﾀ（ＣＲ）の読込み（Ｒｅａｄ　Ｍｏｄｅ　Ｃｏｎｆｉｇｕｒａｔｉｏｎ）コマンド

ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”ＲＭＣ”：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：”ＲＭＣ”：フラグ設定値：ＥＴＸ

共通モードフラグレジスタ（２バイト／４キャラクタ）の現在の内容を１６進数で返します．

（１５）コマンド　”ＲＭＦ”
ファンクション：ﾓｰﾄﾞﾌﾗｸﾞﾚｼﾞｽﾀ（ＦＲ）の読込み（Ｒｅａｄ　Ｍｏｄｅ　Ｆｌａｇ）コマンド

ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”ＲＭＦ”：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：”ＲＭＦ”：フラグ設定値：ＥＴＸ

モードフラグレジスタ（２バイト／４キャラクタ）の現在の内容を１６進数で返します．

（１６）コマンド　”ＳＭＣ”
ファンクション：ｺﾝﾌｨｷﾞｭﾚｰｼｮﾝﾌﾗｸﾞﾚｼﾞｽﾀ（ＣＲ）のセーブ（Ｓａｖｅ　Ｍｏｄｅ　Ｃｏｎｆｉｇｕｒａｔｉｏｎ）コマンド

ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”ＳＭＣ”：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：ＥＴＸ　（処理完了），または，ＳＴＸ：ＮＡＫ：ＥＴＸ　（処理不能）

現在の共通モードフラグレジスタの内容をＥＥＰＲＯＭに保存します．

（１７）コマンド　”ＲＴＭＰ”
ファンクション：カメラ内部温度データの読込み（Ｒｅａｄ　ＴｅＭＰａｒａｔｕｒｅ）コマンド

ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”ＲＴＭＰ”：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：”ＲＴＭＰ”：内部温度データ：ＥＴＸ

現在のカメラ内部温度データの内容を１６進数で返します．
返信される１６ビットデータの内有効なデータは下位１０ビットです．この１０ビットの数値は２の補数形式で符号付き整数の－５１１～５１１の値を表します．実際の摂氏温度はこの数値に一定の係数を乗算し求めます．

→返信データから温度数値への変換方法は”（４－６）カメラ内部温度モニター機能”の項目をご参照下さい．

（１８）コマンド　”Ｘ”
ファンクション：ランダムシャッタトリガ（ｅＸｅｃｕｔｅ　ｔｒｉｇｇｅｒ）コマンド

ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”Ｘ”：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：ＥＴＸ

カメラがランダムシャッタ動作（メニュー表示時を除く）に設定されている時，このコマンドを用いてカメラ内部からランダムシャッタトリガ信号を発生させ画像を更新する事が出来ます．
ここで内部発生されるトリガ信号は１００ｍｓ±５％の負論理トリガ信号です．このコマンドを用いたランダムシャッタ動作の繰り返しピッチの最小値は約３００ｍｓです．
このコマンドによるトリガ信号に限りトリガ信号の入力に呼応してカメラ内部のブザーがワンショット時間（約５０ｍｓ）鳴ります．このブザーを鳴らしたくない場合はコンフィグレーションメニューの設定かシリアル通信コマンドでコンフィギュレーションフラグを変更して”操作確認ブザー音＝ＯＦＦ”として下さい．

（注）”Ｘ”コマンドに対してはランダムシャッタ動作に設定されていない時やメニュー表示の状態（”Ｘ”コマンドでランダムシャッタ動作出来ない設定状態）でも”ＡＣＫ”（処理完了）が返信されます．
（注）シリアル通信を用いたコマンドの為，通常のトリガ信号による動作の様な即時性は有りません．カメラ設定時の動作確認や撮像対象物体の移動速度が特別遅い時など，特に即時性が要求されない用途にのみご使用下さい．

（１９）コマンド　”ＡＲＥＳＥＴ”
ファンクション：動作リセット（ＡＩＩ　ＲＥＳＥＴ）コマンド

ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”ＡＲＥＳＥＴ”：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：ＥＴＸ　（処理完了），または，ＳＴＸ：ＮＡＫ：ＥＴＸ　（処理不能）

カメラを電源投入時の状態にリセットします．電源投入時の処理を行いますので，一時的にカメラリンク出力（同期信号，映像信号）などは不定となります．

（注）電源を一旦ＯＦＦとし再起動する操作に対応します．保存されているＥＥＰＲＯＭの内容は失われません．
（注）このコマンドに限り（動作モード「グループ２」，「グループ３」，「グループ４」）の状態でも受け付けられます．

（２０）コマンド ”ＷＩＤ”
ファンクション：カメラＩＤ（ユーザ設定）の書き込み（Ｗｒｉｔｅ ＩＤ）コマンド

ホスト側送信 ： ＳＴＸ：”ＷＩＤ”：０～最大１５文字までの文字列：ＥＴＸ
カメラ側返信 ： ＳＴＸ：ＡＣＫ：ＥＴＸ （処理完了），または，ＳＴＸ：ＮＡＫ：ＥＴＸ （処理不能）

文字列に使用する文字は半角の英数字（大文字と小文字）と一部の特殊記号（下記）です．
使用出来る特殊記号…SP（H'20），!(H'21），’（H'27），＋（H'2B），コンマ（H'2C），－（H'2D），．（ピリオド）（H'2E），／（H'2F），：（H'3A），；（H'3B），＜（H'3C），＝（H'3D），＞（H'3E），？（H'3F），［（H'5B），］（H'5D），_（H'5F），の各文字．

（注）文字数が１５文字を越えた場合は（処理不能）となります．
（注）文字数が０の時はＩＤコードが消去されます．
（注）使用出来ない文字を含む文字列を送信した場合は正しくＩＤが書き込まれませんので注意して下さい．但しの場合でもエラー（処理不能）とはなりません．
（注）このコマンドではＥＥＰＲＯＭへの書き込みは行われませんのでこのコマンドで設定した内容は電源ＯＦＦ後消失します．設定した値をＥＥＰＲＯＭに保存するには別のコマンド”ＳＩＤ”を実行します．

（２１）コマンド ”ＳＩＤ”
ファンクション：カメラＩＤ（ユーザ設定）のセーブ（Ｓａｖｅ ＩＤ）コマンド

ホスト側送信 ： ＳＴＸ：”ＳＩＤ”：ＥＴＸ
カメラ側返信 ： ＳＴＸ：ＡＣＫ：ＥＴＸ （処理完了），または，ＳＴＸ：ＮＡＫ：ＥＴＸ （処理不能）

現在のＩＤコードの内容をＥＥＰＲＯＭに保存します．

（注）ＩＤコード（文字列）はプログラムページとは独立したエリアに保存され，いずれのプログラムページで起動してもこの共通の数値（１個の数値）が適用されます．
（注）工場出荷時はＩＤコードは保存されていません．

（２２）コマンド ”ＲＩＤ”
ファンクション：カメラＩＤ（ユーザ設定）の読出し（Ｒｅａｄ ＩＤ）コマンド

ホスト側送信 ： ＳＴＸ：”ＲＩＤ”：ＥＴＸ
カメラ側返信 ： ＳＴＸ：ＡＣＫ：”ＲＩＤ”：０～最大１５文字までの文字列：ＥＴＸ

ＩＤコード（文字列）の内容（０～最大１５キャラクタ）が読み出されます．返信キャラクタ数が０の場合はＩＤコードが設定されていない状態です．

（２３）コマンド ”ＷＶＳＵＢ”
ファンクション：Vsub値（CCD基板電圧）の書き込み（Ｗｒｉｔｅ ＶＳＵＢ）コマンド

ホスト側送信 ： ＳＴＸ：”ＷＶＳＵＢ”：（Vsub設定値）：ＥＴＸ
カメラ側返信 ： ＳＴＸ：ＡＣＫ：ＥＴＸ （処理完了），または，ＳＴＸ：ＮＡＫ：ＥＴＸ （処理不能）

（２４）コマンド ”ＳＶＳＵＢ”
ファンクション：Vsub値（CCD基板電圧）のセーブ（Ｓａｖｅ ＶＳＵＢ）コマンド

ホスト側送信 ： ＳＴＸ：”ＳＶＳＵＢ”：ＥＴＸ
カメラ側返信 ： ＳＴＸ：ＡＣＫ：ＥＴＸ （処理完了），または，ＳＴＸ：ＮＡＫ：ＥＴＸ （処理不能）

（２５）コマンド ”ＲＶＳＵＢ”
ファンクション：Vsub値（CCD基板電圧）の読出し（Ｒｅａｄ ＶＳＵＢ）コマンド

ホスト側送信 ： ＳＴＸ：”ＲＶＳＵＢ”：ＥＴＸ
カメラ側返信 ： ＳＴＸ：ＡＣＫ：”ＲＶＳＵＢ”：（Vsub設定値）：ＥＴＸ

（２６）コマンド ”ＲＭＧ”
ファンクション：ＭＧＣゲイン読込み（Ｒｅａｄ ＭＧＣ ＧＡＩＮ）コマンド

ホスト側送信 ： ＳＴＸ：”ＲＭＧ”：ＥＴＸ
カメラ側返信 ： ＳＴＸ：ＡＣＫ：”ＲＭＧ”：ＭＧＣ設定値：ＭＧＣＢ設定（右画面）：ＥＴＸ

（２７）コマンド ”ＷＭＧ”
ファンクション：ＭＧＣゲイン書き込み（Ｗｒｉｔｅ ＭＧＣ ＧＡＩＮ）コマンド

ホスト側送信 ： ＳＴＸ：”ＷＭＧ”：ＭＧＣ設定値：ＭＧＣＢ設定値（右画面）：ＥＴＸ
カメラ側返信 ： ＳＴＸ：ＡＣＫ：ＥＴＸ （処理完了），または，ＳＴＸ：ＮＡＫ：ＥＴＸ （処理不能）

ＭＧＣ設定値は，１６進数２桁のＡＳＣＩＩコード ”２０”～”Ｅ０”（ ３２～ ２２４；１０進）でセットします。
例 レベル ９０（１０進）をセットする場合 ”５Ａ”

例　ＭＧＣ設定値をレベル９０（１０進）にセットする場合
　　ＳＴＸ：”ＷＭＧ”：”５Ａ”：”００”：ＥＴＸ

（２８）コマンド　”ＲＯＦ”
ファンクション：オフセット読込み（Ｒｅａｄ　ＯＦＦＳＥＴ）コマンド

ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”ＲＯＦ”：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：”ＲＭＧ”：ＯＦＦＳＥＴ設定値：ＯＦＦＳＥＴＢ設定（右画面）：ＥＴＸ

（２９）コマンド　”ＷＯＦ”
ファンクション：オフセット書き込み（Ｗｒｉｔｅ　ＯＦＦＳＥＴ）コマンド

ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”ＷＯＦ”：ＯＦＦＳＥＴ設定値：ＯＦＦＳＥＴＢ設定（右画面）：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：ＥＴＸ　（処理完了），または，ＳＴＸ：ＮＡＫ：ＥＴＸ　（処理不能）

OFFSET設定値は，１６進数２桁のＡＳＣＩＩコード　”２０”～”Ｅ０”（　３２～　２２４；１０進）でセットします。
例　レベル　１００（１０進）をセットする場合　”６４”

例　ＯＦＦＳＥＴ設定値をレベル９０（１０進）にセットする場合
　　ＳＴＸ：”ＷＯＦ”：”６４”：”００”：ＥＴＸ

（３０）コマンド　”ＲＰＳ”
ファンクション：プリセットの読出し（Ｒｅａｄ　ＰＲＥＳＥＴ）コマンド

ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”ＲＰＳ”：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：”ＲＰＳ”：”プリセット番号”：ＥＴＸ

ゲイン＆オフセットの値が４種類のプリセット番号と一致している場合，そのプリセット番号を読みだします．
プリセットと一致しない場合は”０”が返信されます．

（３１）コマンド　”ＷＰＳ”
ファンクション：プリセット設定（Ｗｒｉｔｅ　ＰＲＥＳＥＴ）コマンド

ホスト側送信　：　ＳＴＸ：”ＷＰＳ”：”プリセット番号”：ＥＴＸ
カメラ側返信　：　ＳＴＸ：ＡＣＫ：ＥＴＸ　（処理完了），または，ＳＴＸ：ＮＡＫ：ＥＴＸ　（処理不能）

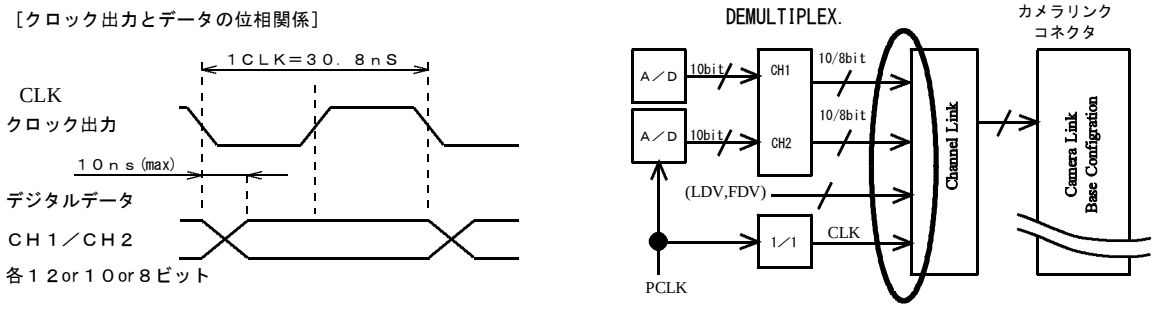
出荷時に設定されている４種類のプリセット（ゲイン＆オフセット設定）を呼び出し，使用することができます．

●コマンド使用上の注意

・内部の不揮発性ＲＯＭ（ＥＥＰＲＯＭ）はデバイスの仕様上，保証される上限の書き換え回数が１００万回となっています．
従って，ＥＥＰＲＯＭへの書き込み動作を伴うコマンド”ＷＡ～ＷＦ”，”ＳＭＣ”，”ｅ”などについては，これらのコマンドがユーザ側のプログラムループ内で無制限回数（又はこれに近い形で）反復される様な使用を避ける様にして下さい．

８．タイミングチャート

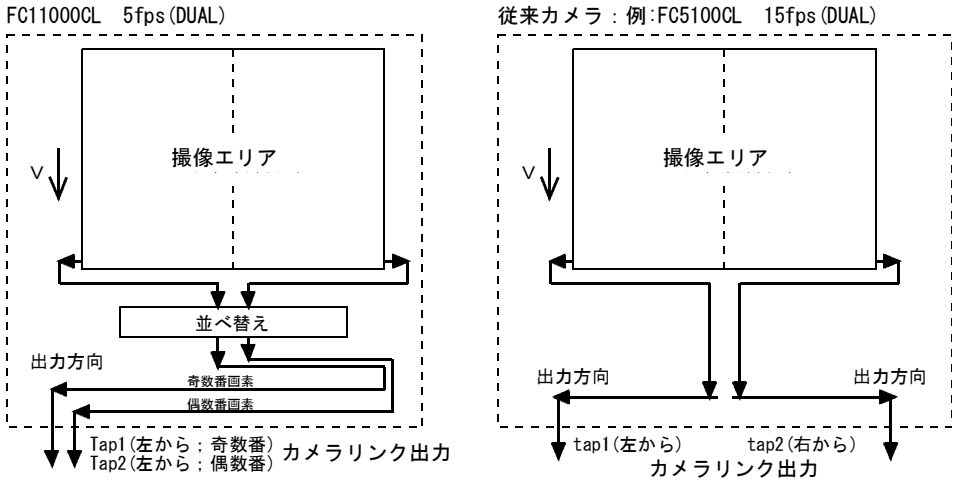
●ピクセルクロックタイミング（各動作モード共通）



（注）上記タイミングは送端側でのチャンネルリンクデバイスによるシリアルデータへのエンコード前の信号タイミングです（右上図の楕円内）．受端側でカメラリンク規格に従ったチャンネルリンクデバイスでのシリアル→パラレル信号変換操作を行うとデコード後のデータとクロックの位相関係はチャンネルリンクデバイスの構造上，上記タイミングと異なったものとなります．（チャンネルリンクデバイスの出力ではデータはクロック信号の立ち下がりに整列します．）通常，このタイミングの変化についてはキャプチャーボード側の取り込みタイミングで正しく調整され従来のパラレル出力型と同等の定義ファイルを使用して取り込む事が可能です．

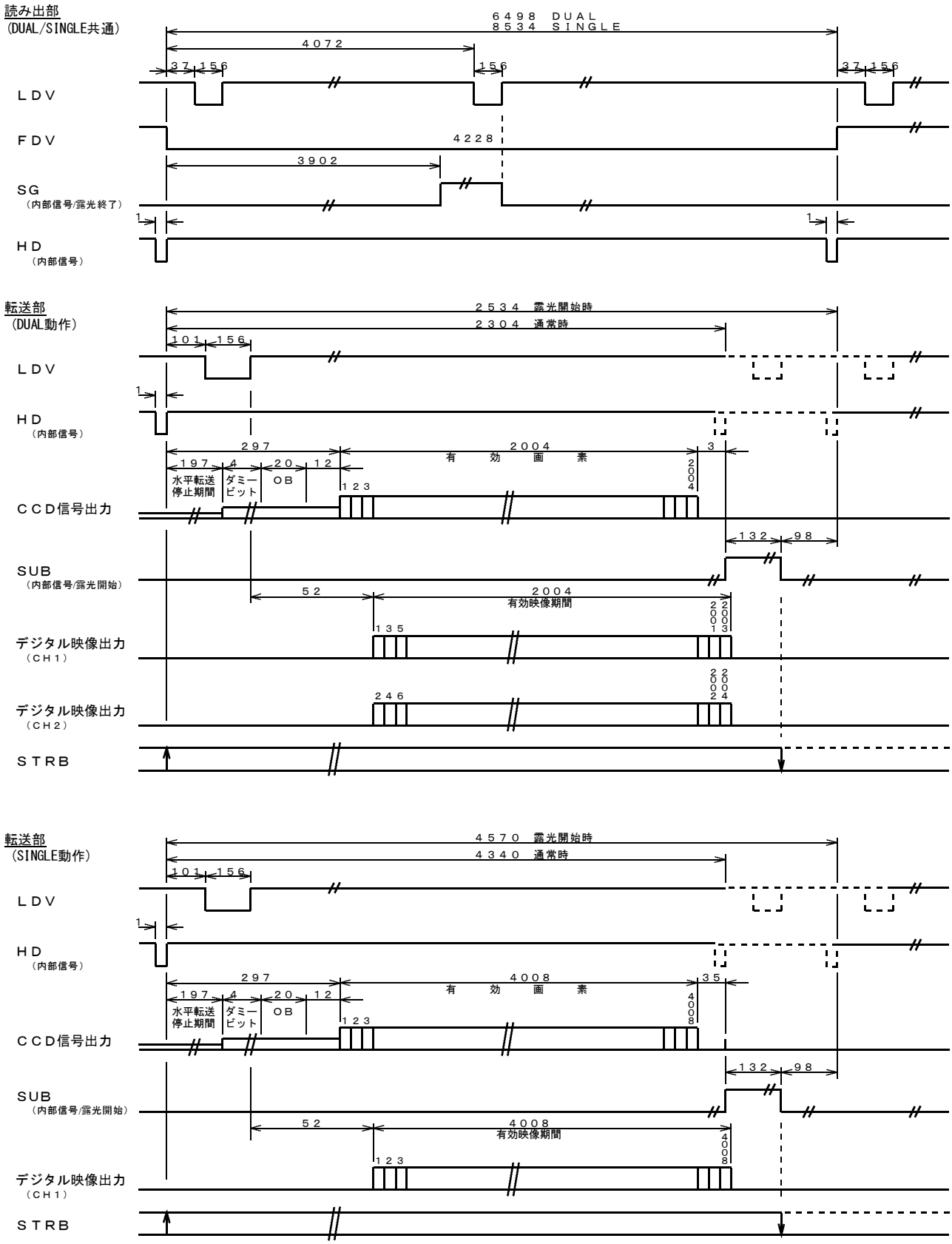
（注）市販のカメラリンク対応のキャプチャーボードを使用せずにチャンネルリンクデバイスを直接ユーザ側の取り込みインターフェースに実装する場合はデータとクロックの位相関係など，チャンネルリンクデバイスのデータシートの記載にある内容に注意してご使用願います．

（！）ＦＣ１１０００ＣＬは，１０or８ｏｒ１２ｂｉｔ×２Ｔａｐ出力を採用しています．
（！）ＦＣ１１０００ＣＬは，ＤＵＡＬ出力時（５ｆｐｓ）でも，内部のバッファを使用して並べ替えを行うため，映像の左から順に出力されます．そのため，左右から出力する（ミラー出力タイプ）ＦＣ５１００ＣＬなど，とは出力フォーマット上の互換性がなく専用の設定ファイルが必要となります．



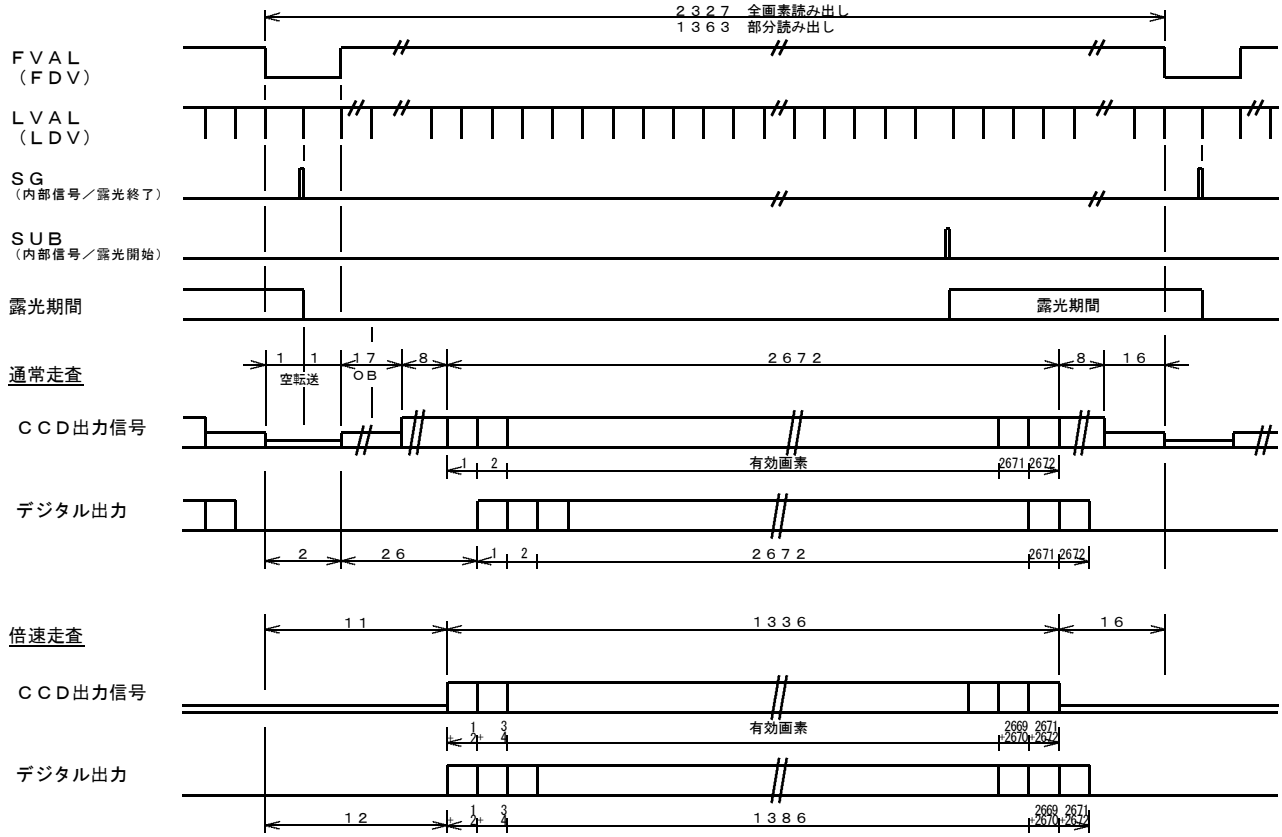
ＤＵＡＬ走査時の出力

●水平タイミング



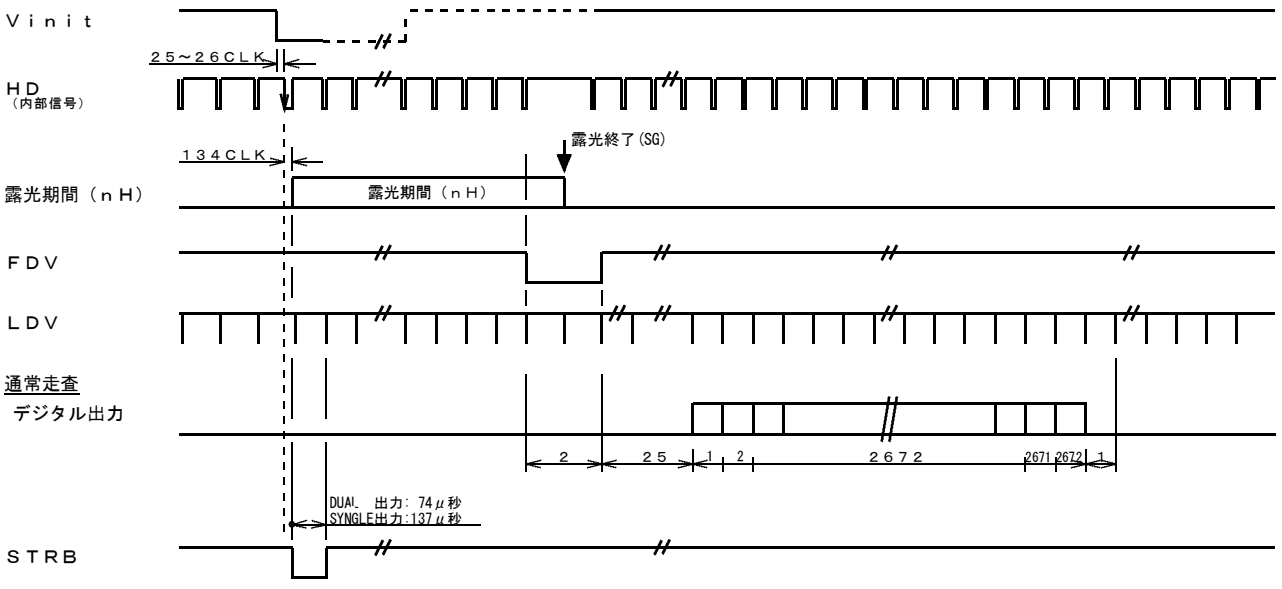
※水平タイミングチャートで指定なき数値の時間単位は CLK （= 1/32.50MHz = 30.8nS）とする.
※数値は設計値ですので，詳細は実機にてご確認ください.

●垂直タイミング：連続シャッタ



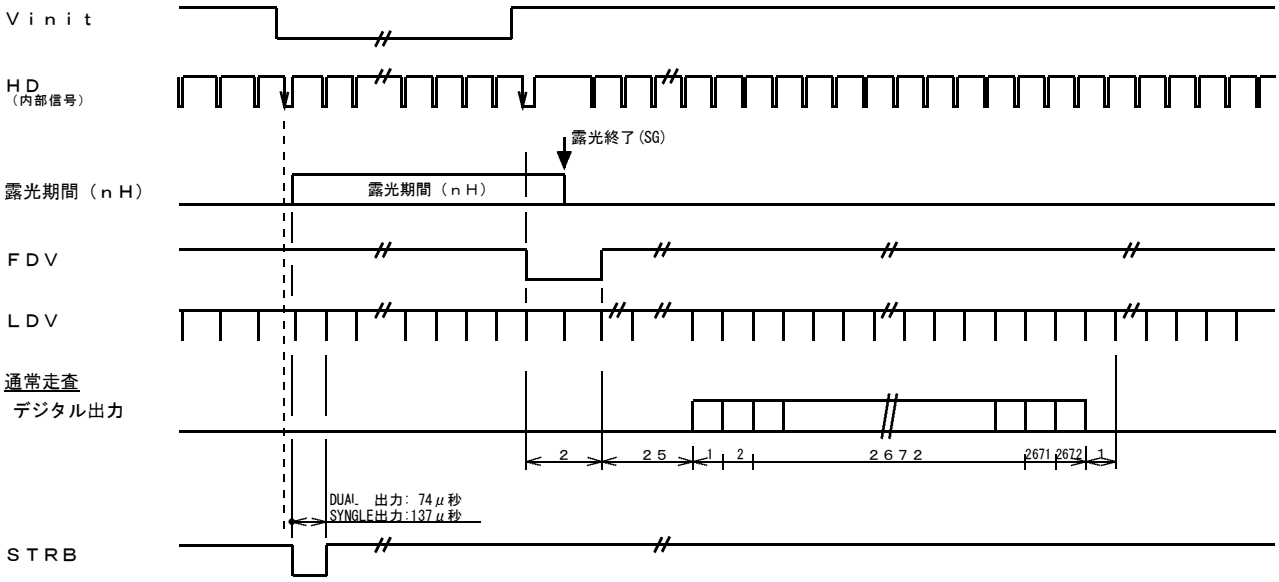
※ＬＤＶの周期は一定ではありません．読み出し部分，映像転送（SUBの有無）などで異なります．
　詳細は，水平タイミングチャートを参照してください．

●垂直タイミング：高速／固定長／ランダムシャッタ／通常走査



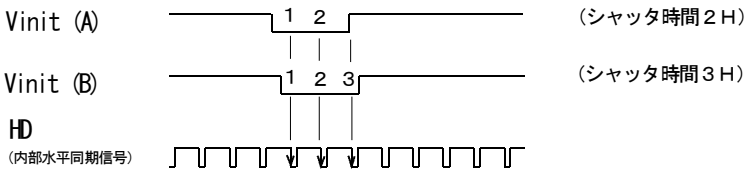
※垂直タイミングチャートで指定なき数値の時間単位は CLK （= 1/32.50MHz = 30.8nS）とする．
※固定長シャッタ，パルス幅制御ともに，Ｖｉｎｉｔ検出時の動作は同じタイミングです．
※数値は設計値ですので，詳細は実機にてご確認ください．

●垂直タイミング：高速／パルス幅制御／ランダムシャッタ／通常走査



（注）パルス幅制御モードでランダムシャッタ動作を行う場合，厳密には同一のＶｉｎｉｔのパルス幅を印加しても１Ｈの幅だけシャッタ時間が異なる現象が起こります．（１Ｈ幅だけ不定となる）
右図では（Ａ），（Ｂ）ともに同一パルス幅（２Ｈ～３Ｈの間の値）を印加していますが，内部の水平同期タイミングとの位相関係により（Ａ）ではシャッタ時間＝２Ｈ，（Ｂ）ではシャッタ時間＝３Ｈとなります．

同一幅のＶｉｎｉｔ信号でシャッタ時間が１Ｈ異なる例



この理由で，内部の水平同期信号（ＨＤ）と非同期なＶｉｎｉｔ信号をユーザから印加する場合，１Ｈのシャッタ時間だけ露光時間が不定となる事を考慮する必要があります．具体的には

①シャッタ時間が１Ｈ不定となっても影響の少ないシャッタ時間でのみ用いる．
…１００Ｈ幅以上など，比較的シャッタ時間が長い場合は１Ｈの露光時間差での信号レベルに対する影響が相対的に小さい為，実用上問題が発生し難い．

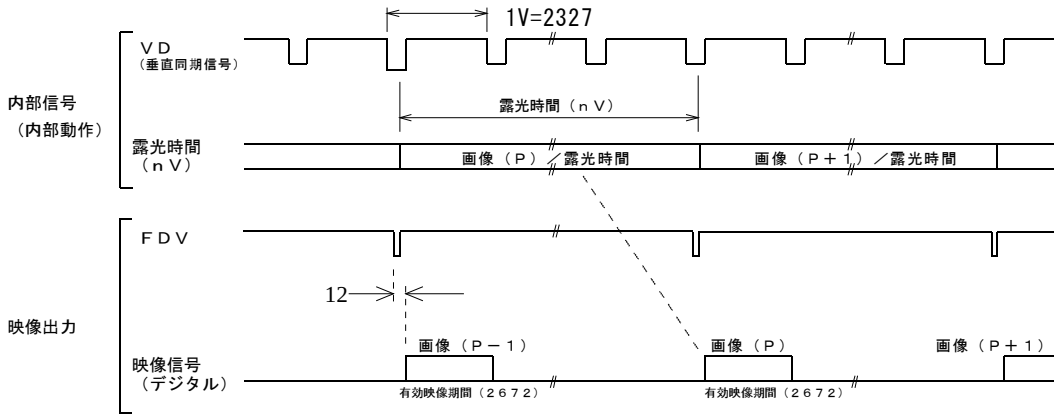
②カメラのＬＤＶ信号を用いて外部のトリガ信号を同期化し，Ｖｉｎｉｔの位相関係を一定にする．
…内部のＨＤに対するＶｉｎｉｔの発生位相を一定にする事で，１Ｈの不定時間の発生なしに制御が可能です．

などが考えられます．

（注）ｎは上限値がありませんので１フレーム時間を超える長時間露光も可能です．但し，この場合はＣＣＤの熱雑音の蓄積などにより映像信号のＳ／Ｎ比が悪化しますので実用となる最大時間は具体的な使用状況に基づき決定して下さい．

●垂直タイミング：低速シャッタ（長時間露光）／固定長／連続／通常走査

低速シャッタ（長時間露光）タイミング



※各有効映像期間の詳細な垂直タイミングは”垂直タイミング／連続シャッタ，シャッタなし”と同じです．

（注）長時間露光動作と倍速走査は両立出来ません．
（注）長時間露光動作でのランダムシャッタ動作はサポートしていません．

９．注意事項

●本装置を医療用途や危険物の検知など，動作の如何により人命や安全に関わる可能性の有る用途に用いることは出来ません.
●本製品の使用または性能の不具合から生じた付随的な損害（事業利益の損失・事業の中断・データの変化・消失など）に関して，当社は一切責任を負いません。
●本装置を分解したり内部回路の改造などは行わないで下さい．動作不良に伴う発熱などで火災などの事故の原因となります.
●本装置は，２出力のＣＣＤを採用することで１１００万画素で５ｆｐｓという高フレームレートのカメラです．映像信号の左右で異なるアナログ回路を経由するため，左右の映像信号に多少の輝度差が生じることがあります．また，経時的に輝度差（出力差）を生じることが有りますので，定期的に再調整して使用することを推奨します．特に高感度（高ゲイン）でご使用の場合は，輝度差（出力差）が生じ易くなることが有りますので，ご注意下さい.
●ＣＣＤの複数の出力を使用するモード（ＤＵＡＬ：５ｆｐｓ）では，同時に２つの映像信号が出力されるため，コントラストの大きい映像などでは，映像の縦中央軸とした反対側の映像に写り込みが生じることが有ります.
●電源投入後２０～３０分を経過させることにより，より安定した（高精度な計測に適した）映像を得ることができます.
●パルス幅制御モードなどで長時間のシャッタ露光を行った場合，ＣＣＤのダイナミックレンジの低下，シャッタ時間に比例してＣＣＤ撮像素子の熱雑音成分などが蓄積される，などの要因により画像のＳ／Ｎが悪化する様になります．この様に長時間の露光を行う場合は実用的な露光時間を実際のご使用状況に合わせて実験し，適正な露光時間をお確かめ頂く事を推奨致します.
●通電状態でのケーブル，コネクタ類の付け外しは故障の原因となりますのでお避け下さい.
●大きい，または，重いレンズを使用する場合は，レンズを固定するなどカメラに過大な力が掛からないように配慮してください.
●本装置に接続する電源にはノイズ成分が含まれない良質なものをご使用下さい.
●近距離に設置された動力機器等からノイズが放射され，本装置に対して影響が懸念される場合は，これらのノイズの発生を抑制する処置をとって下さい.
●仕様外の温度環境や，結露を発生する環境，塵埃の多い場所，恒常的な振動・衝撃が加えられる場所でのご使用は避けてください.
●長時間ご使用にならない時は，装置へ電源供給を絶って電源コードや外部接続コードを外しておいてください.
●異常や故障にお気付きのときは直ちに使用を中止し，電源供給を絶って外部接続コードを外し販売店へ修理・点検をご依頼ください.
●本品についてカタログや取扱説明書等に記載されている仕様や動作内容等については性能の改善などの目的の為に予告なく変更する場合が有ります.

［撮像素子の経時劣化対策］

［重要］

本機のご使用に当たっては，特に搭載されているＣＣＤ撮像素子の経時劣化による問題（画素欠陥の増加等）を防ぐ為次の諸点にご注意下さい.

●恒常的に高温，高湿度に曝される環境でのご使用は避けて下さい.
特に高温環境下ではＣＣＤ素子の劣化が促進され黒点などの画素欠陥の発生の原因となる場合が有ります．長期間に渡ってご使用頂く為には出来るだけ通常の室温程度（３０°Ｃ以下）の周囲温度でご使用頂く事を推奨させて頂きます.
機器内部への組み込み用途などでカメラ周囲の温度上昇が懸念される場合は空冷ファンなどの冷却装置のご使用等をご検討下さい.

●受光面が長時間，強度の光量に曝されることのないようにご注意下さい.
受光面が強度の光量に長時間曝されると（カメラの電源 ON/OFF に関わらず）ＣＣＤ素子表面の色フィルタが変色したり焼き付けを起こすことで正常な画像が出力されなくなる事が有ります.
太陽光など強度な光が長時間入射する場合は減光フィルタを用いたりレンズの絞りを絞る事により入射光量を低減させて下さい.
電子シャッタを高速にする事による出力レベルの調整では撮像面に入射する光量自体は減少しない為，撮像素子の焼き付きや変色の防止が出来ませんのでご注意下さい.
長時間ご使用にならない場合はカメラをケーブルから外しレンズキャップを装着して保管して頂く事を推奨致します.

［撮像素子の画素欠陥について］

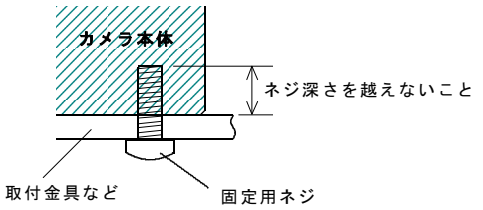
［重要］

撮像素子固有の特性により製品出荷後に新たな画素欠陥の発生や，一部の画素の欠陥レベルが時間経過により増大する場合がございます．この様な製品ご購入後の撮像素子の画素欠陥の数やレベルの増加については自然環境下によって不可避的に発生する可能性が有るものでありカメラの製造や設計上の不具合では有りません.
従いましてこれらの画素欠陥の増加やレベルの増大については製品の保証範囲外とさせて頂きます.
また長時間露光動作で画像に出現する画素欠陥についても製品の保証範囲外とさせて頂きます.

［カメラ固定用ネジについて］

［重要］

カメラをユーザ側の固定金具や板金等に固定する際，固定に用いるネジの長さにご注意下さい.
カメラ本体側のネジ深さは本文書末の外形寸法図で指定された値を越える事がないようにして下さい.
このネジ深さを越えるネジを用いるとカメラ内部が破損する恐れがあります.



１０．仕様

［仕様］

撮　像　素　子	プログレッシブ走査，インターライン転送方式 ＣＣＤ 対角４３ｍｍサイズ ユニットセルサイズ　9.0um(H) × 9.0um(V)　正方格子配列
FC11000CL	白黒撮像素子
FS11000CL	カラー撮像素子（RGBﾍﾞｲﾔｰ配列）
有 効 画 素 数	4008 (H)×2672(V)
読 出 し 走 査	水 平 走 査 周 波 数　f_H = 14.1 KHz(DUAL) : 7.5 KHz(SINGLE) 垂 直 走 査 周 波 数　f_V = 5.1 Hz(DUAL) : 2.7 Hz(SINGLE) ピクセルクロック周波数　f_{CLK}= 32.50 MHz ※水平，垂直走査周波数は，代表値です．
標　準　感　度	８００Lx　Ｆ２２（FC11000CL）　※ ８００Lx　Ｆ２２（FS11000CL）　※ （※露光時間１／３０秒にてデジタル出力５１２／１０２４階調出力時）
最低被写体照度	１　Ｌｘ　Ｆ１．４　（FC11000CL） ２　Ｌｘ　Ｆ１．４　（FS11000CL）
Ｓ　／　Ｎ	約５０dB
ビデオ出力信号	プログレッシブ走査：5.1Hz/フレーム(DUAL)　2.7Hz／フレーム(SINGLE) 出力信号形式：　デジタル出力／Camera Link（Base Configuration）方式準拠 10bit 階調　(32.5MHz×2tap×10or8or12bit出力）(DUAL) 10bit 階調　(32.5MHz×1tap×10or8or12bit出力）(SINGLE)
外 部 同 期 入 力	内部同期専用
電 子 シ ャ ッ タ	１／２０００秒～１／５　　秒（シャッタなし）～１／０．５１秒　(DUAL) １／１２００秒～１／．２７秒（シャッタなし）～１／０．２７秒　(SINGLE)
ランダムシャッタ	プリセット固定シャッタ／パルス幅制御
走 査 モ ー ド	標準（全画素）／倍速
レンズマウント	Ｆマウント　（フランジバック固定）
光 学 フ ィ ル タ	なし
外　部　制　御	カメラリンクケーブル経由シリアルインターフェース
特　殊　機　能	画像出力への設定情報インポーズ機能 カメラ内部温度モニター機能　，　カメラＩＤ情報保存機能
ス ト ロ ボ 出 力	露光開始タイミング信号（＋５Ｖロジックレベル）
電　　源	ＤＣ１２Ｖ±１０％　，　５００ｍＡ（代表）
動 作 周 囲 温 度	０℃～４０℃（結露，結氷のないこと）
保 存 温 度 範 囲	－３０℃～６０℃（結露，結氷のないこと）
耐　　衝　　撃	７０Ｇ
耐　　振　　動	７Ｇ
外　形　寸　法	６４(W)×６４(H)×９４(L)mm　　（トリポットアタッチメントを除く）
重　　量	約５００g

（注）仕様は改良のため，予告なく変更されることがありますのでご了承下さい．

１１．外形寸法

［外形寸法］

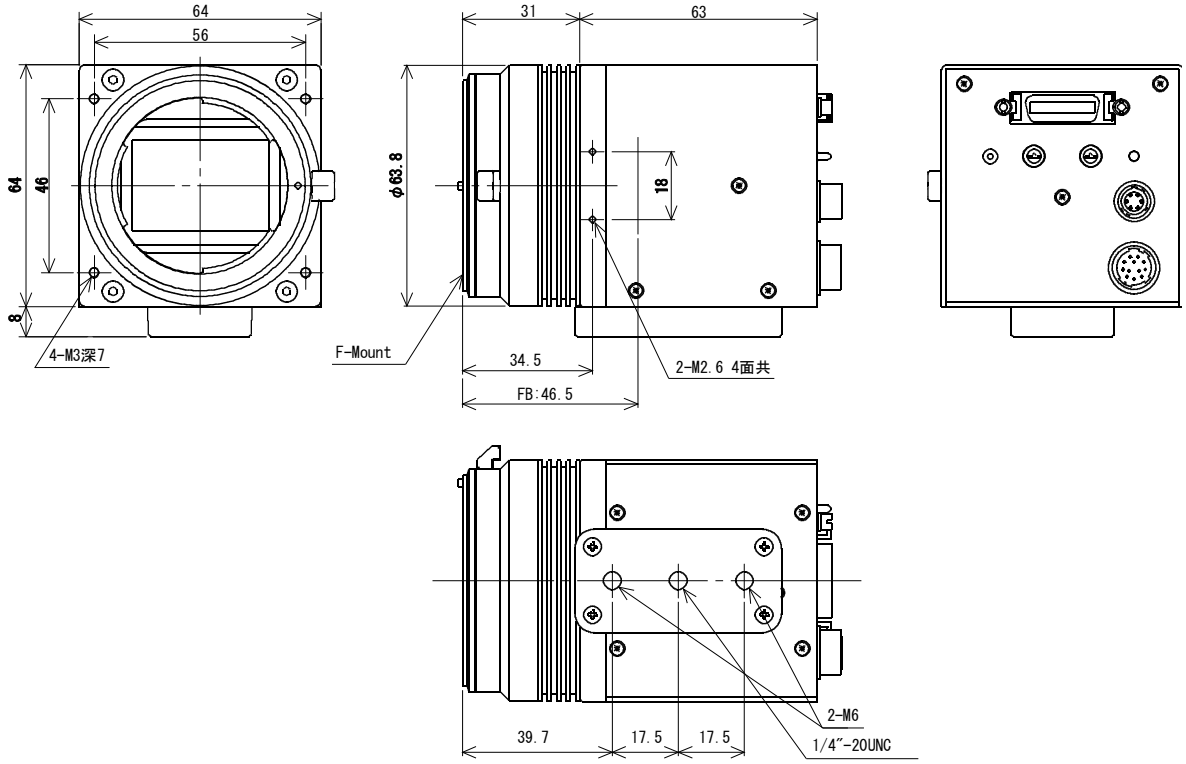


図１１－１　ＦＣ１１０００ＣＬ／ＦＳ１１０００ＣＬ外形図